	□ 選択 ☑ 必修 ☑ 講義 □ 演習 □ 実習								
	科目名	7		教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	医療倫理	里学		平塚 健太 (実務経験教員)		2	1	前期	
	授業概要	臨床·	で求め	られる医の倫理感を身に着ける基礎となる講義を行う					
	到達目標	臨床	におけ	る倫理観,マナー,常識を知り,理解できるようになる					
				授業計画					
1	作	浄理とは		オリエンテーション・倫理の概要を理解する					
2	医療に	おける倫理	1	医療倫理の4原則について理解し、考えを述べることができる					
3	医療者と	患者の関係	(1)	医療面接の基本的な考えを理	里解し、🤻	考えを述べるこ	ことができる		
4	医療者と	患者の関係	(2)	医療面接の手法を理解し、考	考えを述べ	べることができ	きる		
5	コメディカ	」ルの職業倫	論理①	理学療法士・作業療法士の職	哉業倫理?	を理解する			
6	コメディカ	」ルの職業倫	論理②	理学療法士・作業療法士の暗	哉業倫理?	を理解し、考え	えを述べることが ^っ	できる	
7	生命誕生	Ξのあらまし	1	出生前診断,胚選別,妊娠中	中絶につい	ハて理解する			
8	8 生命誕生のあらまし②			出生前診断,胚選別,妊娠中	中絶につい	ハて理解し、孝	考えを述べること;	ができる	
9	9 薬害と医療事故			薬害の歴史や医療事故につい	ハて理解し	し、考えを述べ	べることができる		
10	0 人工臓器			ES 幹細胞移植 iPS細胞の治療や倫理的問題を理解する					
11	臨床研	究の倫理①		臨床研究における倫理の歴史を基に考えを述べることができる					
12	臨床研	究の倫理②		臨床研究における倫理の歴史を基に考えを述べることができる					
13	障	害の受容		障害を受け入れる過程について理解する					
14		療,安楽列 尊厳死	 こと	終末医療と尊厳死について理解を深め、自分の考えを述べることができる					
15		まとめ		症例課題に基づき自分の考えをまとめ、述べることができる					
12.	教科書 必			要に応じて提示する		履修条件		ので4回以上欠席 きを受験できない	
ż	参考書		教	文養としての生命倫理		留意事項等	できるだけ欠席- を怠らないこと	せず,予習復習	
成	え績評価			なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる					
	備考								

□ 選択 ☑ 必修 □ 講義 ☑ 演習 □ 実習							実習	
	科目名			教員氏名	I	単位	配当年次	開講期
B	医療情報科学	演習		外舘 洸平 (実務経験教員)		1	1	前期
	授業概要			作を不便なく行うことができ 方などを、講義・演習を通し			に対応できるよう	に推奨する情報
	到達目標			基本的な使用方法と情報リテラシーを身に着け、自身で取りまとめた情報を対外的に とができるようになる				
				授業計	画			
1	オリエ:	ンテーショ	ン	パソコンの基本的な操作を習得することができる				
2	Gmail、Go	ogle Clas	sroom	メールでの連絡方法、およびGoogle Classroomを使用した課題の提出方法を習得することができる				
3	0	neNote		OneNoteを使用して授業のノ	′ –	をとることができ	きる	
4		Word		文章を入力などの基本的な技 を作成することができる	操作、	レイアウト変更や	や図表の挿入ができ	き、見やすい文章
5	Pov	werPoint		基本的な操作を理解し、プレ	_ ⁄ゼン	 テーション用の資	 資料を作成すること	 こができる
6		Excel		基本的な操作を理解し、グラフ作成、関数を使用した計算を行うことができる				
7	情報リテラシー①			自他の個人情報の重要性を知	口り,	個人情報を守る <i>†</i>	ために正しく対処"	できる
8	8 情報リテラシー②			文献検索の意義を理解し、文献検索の意義を理解し、文献を理解し、正しく用いること			できる。また、著作	乍物に関する権利
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
:	教科書		資料配布		履修条件	8回の講義なので、 と定期試験を受験		
:	参考書		必	必要に応じて提示する 留意事項等 できるだけ欠席せず, らないこと		ず,予習復習を怠		
月	え続評価		各回	で課題の提出を求め、提出物が指定された条件を満たしているか採点する				
	備考			基本操作の紹介は行うが、操作の習熟は各自の自己練習に期待したい				

	□ 選択 ☑ 必修								
	科目名		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	427 九124		千葉 馨		2	1	\` ##		
	解剖学		(実務経験教員)	(実務経験教員) 2 1 前期					
	授業概要	リハ	ビリテーションの基礎知識となる人	ーションの基礎知識となる人体の構造、部位名称等について覚え、理解し、後に					
	投耒ベ安	学ぶり	疾患や障害学、治療学の土台となる	障害学、治療学の土台となるべく力を培う。					
	到達目標	・人1	本の各部位名称を覚える、書ける、	人体σ)構成を理解する	る(解剖用語のア	'ウトプットも		
	封连日倧	含む)	骨格筋について髄節、神経支配、	作用、	起始停止につい	ハて覚える。			
			授業計画						
1	オリエンテー	ション	解剖学の用語と解剖学的体位と	平面 ,	人体の各部名称な	ど(頭頸部、上肢	下肢、体幹)		
2	細胞		細胞						
3	発生		ヒトの発生						
4	人体の組織		骨の発生と骨格	骨の発生と骨格					
5	消化器系の概	要	消化器系の器官と働きの概要につ	ついて	学ぶ				
6	泌尿器系の概	要	泌尿器系の器官と働きの概要につ	ついて	学ぶ				
7	循環器系の概	要	循環器系の器官と働きの概要につ	ついて	学ぶ				
8	呼吸器系の概	要	循環器系の器官と働きの概要につ	ついて	学ぶ				
9	神経系1		中枢神経と末梢神経、脊髄につい	いて学、	.Š.°				
10	神経系2		脊柱と椎骨、脊髄神経について ²	学ぶ					
11	骨格系1		肩甲帯の筋						
12	骨格系2		中間テスト/腕神経叢	中間テスト/腕神経叢					
13	骨格筋1		肘関節の筋① 髄節、支配神経、	、作用、	、起始停止				
14	骨格筋 2		肘関節の筋② 髄節、支配神経、	、作用、	、起始停止				
15	骨格筋3		手関節の筋①髄節、支配神経、化	作用、	起始停止				
16	骨格筋4		手関節の筋②髄節、支配神経、1	作用、清	起始停止				
17	骨格筋 5		手指の筋の構造と手指の筋①髄質	節、支	配神経、作用、起	2始停止			
18	骨格筋 6		手指の筋(手内筋)②髄節、支配	配神経、	、作用、起始停止				
19	骨格筋7		下肢の構造	下肢の構造					
20	骨格筋8		股関節の筋①髄節、支配神経、化	股関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止					
21	骨格筋 9		股関節の筋②髄節、支配神経、1	股関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止					
22	骨格筋10		股関節の筋③髄節、支配神経、1	股関節の筋③髄節、支配神経、作用、起始停止					
23	骨格筋11		膝関節の筋①髄節、支配神経、イ	膝関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止					
24	骨格筋12		膝関節の筋②髄節、支配神経、化						
25	骨格筋13		足関節の構造						
26	骨格筋14		足関節の筋①髄節、支配神経、化	作用、	 起始停止				
27	骨格筋15		足関節の筋②髄節、支配神経、化	作用、i	 起始停止				
28	体幹の構造1		背筋 髄節、支配神経、作用、刺	起始停.	ıŁ				
29	体幹の構造 2			胸部の筋(呼吸筋)髄節、支配神経、作用、起始停止					
	体幹の構造3		腹部の筋を髄節、支配神経、作用						
	教科書		グレイ解剖学第5版		履修条件	全講義の1/5を2 を取得できない			
	参考書	標準	^生 理学療法作業療法解剖学第 6 版		留意事項等	・適宜小テストを で授業で行った部 の補完を常に行う	3分の理解・知識		
, F.,	艾績評価		期末試験、出席状態など授業態度、 修得となる	- -	 物について成績	 の対象とする。	 60点以上「C評		
	備考	授業終了後	の理解度アンケート、不定期な小ラ	テスト	等を実施する。	積極的な質問を複	歓迎する。		

		□選択	☑ 必修	□ 講義	☑ 演習 □	」 実習			
	科目名	1	教員氏名	単位	配当年次	開講期			
	解剖学演	習	千葉 馨 (実務経験教員)	1	1	後期			
	授業概要	度を深め 解度を確 本授業	,消化器系,呼吸器系,泌尿生殖器 るためにグループでの討議など振り 認する。 では担当教員の臨床における作業療 かして講義を展開する。)返りの時間を取り入れ	る。小テストをこる	まめに実施して理			
	到達目標	解剖学請		んについて説明できる。)				
		•	授業計画	П					
1	大脳	省(終脳)	大脳の形態と機能局在につい	って説明できる					
2	大脳の内	部構造と白質	大脳の内部に存在する神経核 て説明できる	(大脳基底核など)	と白質を構成する	神経線維につい			
3	間脳・脳幹		間脳(視床、視床下部、視床 ついて説明できる	間脳(視床,視床下部,視床上部)ならびに脳幹(中脳-橋-延髄)の構造と機					
4	小脳・脊髄		小脳,脊髄の構造と機能につ	小脳,脊髄の構造と機能 について説明できる					
5	伝導路		錐体路や錐体外路などの下行	 「路と脊髄視床路など	 の上行路について	 説明できる			
6	髄膜と脳脊髄液,脳室系 脳の血管		人 内頸動脈系と椎骨動脈系, 動	加味輪,脳室と脳脊髄	液の循環経路につ	いて説明できる			
7	脳神経の	の種類と特徴	脳神経とは何か,その構造と	機能について説明で	きる				
8	自往	律神経系	自律神経系の構造と機能について説明できる						
9	裆	化器系	・口腔から肛門に至る消化管の構造と機能を説明できる。 ・消化に必要な酵素を産生・貯蔵する付属器官についてその構造と機能を説明でき						
10	76	, IO HH /IV	る ・消化管に分布する動脈・静脈について説明できる						
11	呼吸器系		鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる						
12	计		DENT O DIMENT O DI JANUARY	C 17,174 2 061771 C C					
13	- 泌尿・生殖器系		腎臓や膀胱,尿道などの泌尿		宮などの生殖器に	ついて男女の違			
14	<i>心</i> 冰· 土胆硷术		いも含めてその構造と機能を	:説明できる					
15	内	1分泌系	内分泌系の構造と機能につい	内分泌系の構造と機能について説明できる					
3	教科書	・塩田浩平,	他監:グレイ解剖学 原著第4版	履修条件	15回の講義の内場合は定期試験	, 4回以上欠席の を受験できない			

参考書	・加藤征, 他編:新解剖学 フルカラー新装版 第7版(Qシリーズ) ・松村譲兒:イラスト解剖学 第 9 版	留意事項等	できるだけ欠席せず,予習復習 を怠らないこと			
成績評価	・小テスト,期末試験の内容をもって総合的に評価する・総計の60%以上を合格とする					
備考	努めること					

		〕 選択 ☑	3 必修	☑ 講義	□演習□	実習			
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期			
	生理学		石田 裕二 (実務経験教員)	2	1	前期			
	授業概要			一礎的知識(生命活動の本質),呼吸,循環,消化,排泄,それらを調節する自律神経や内分 ・学習する 特に各種の障害に深く関係する神経生理学を重視した内容を展開する					
	到達目標		ついてそのメカニズムの理解を深め,専門分野の学習が円滑に行うための基礎医学的知識を習 り視点からフィジカルアセスメントにつながる基礎的な知識を深めることができる						
			授業計画						
1	概説		生命現象とは何か,人体の構	生命現象とは何か,人体の構造とその概略についてイメージできるようになる					
2	細胞レベルの構	5造と機能	生命の原点である細胞の構造	と機能についてその概	[略が理解できる				
3	細胞膜の機能と 動電位の発生		 分極, 脱分極, 再分極など細 	胞膜と生命現象の関係	の概略を理解でき	3			
4	細胞膜の機能と 動電位の発生	_	ニューロン (neuron) 、シナ 理解できる	-プス(synapse)など	、神経の基本構造	· *			
5	神経系① ニッシナプスの構	ューロンと 造と機能	中枢神経系(脳と脊髄)の構造と機能の概略を理解できる						
6	神経系② 中枢 神経の構造		中枢神経系と末梢神経系の形	態的・機能的な分類が	できるようになる				
7	第生理		筋収縮に関するエネルギー供 滑走説を説明できる	給・代謝について説明	できる				
8	脊髄の構造と下行路		 錐体路系の下行路と錐体外路 	について理解できる					
9	脊髄の構造と上行路		脊髄内の上行路と関連している感覚モダリティについて理解できる						
10	伸張反射の[回路①	脊髄の構造と機能の概略を説明できる 筋紡錘、腱器官の構造と機能を説明できる						
11	伸張反射の回路②		脊髄反射の回路が理解できる 錘内筋の活動、機能について理解できる						
12	自律神経系の構造と機能		自律神経(交感神経と副交感神経)の機能・神経制御によるホメオスタシスの維能について概略が理解できる						
13	脳神経概論		脳神経の構造と機能の概略を理解できる また、自律神経系との関連性について を深める						
14	神経系のま	きとめ	神経系について(動物機能生	― 理学系)総じてその概	略を理解できる				
15	血液・体液		循環器ホメオスタシスに関与する血液・体液について、その機能の概略を理解でき						
16	心電図学 ①		心臓の構造と機能の概略を学習し、心電図が表現する波形について理解を深める						
17	心電図学	2	正常心電図の波形の名称、その意味について理解を深める						
18	心電図学	3	呼吸器と循環器の機能の関連	性と心電図の変化の概	[略が理解できる				

19	呼	吸器概論	呼吸器・循環器の構造と機能が理解	呼吸器・循環器の構造と機能が理解できる			
20	呼吸器と酸塩基平衡		呼吸・代謝機能の全貌から酸塩基平衡について理解できる				
21	内分	·泌学 ①	ホルモンやサイトカインについて	ホルモンやサイトカインについて論じ、その作用の概略について理解を深める			
22	内分	·泌学 ②	内分泌に関わる臓器、生産過程な	どを理解できる			
23	消化	公器学 ①	消化器の構造と機能について概略	が理解できる			
24	消化	2器学 ②	消化酵素(化学的消化)の作用について理解できる				
25	泌尿	器学 ①	腎臓と膀胱の機能と構造について理解できる				
26	泌尿	器学 ②	膀胱の神経支配、排尿反射と神経	因性膀胱の概略を	と理解できる		
27	遺伝学		遺伝のメカニズムを理解し、その物	特徴について理解	₽を深める		
28	免疫	後構 ①	免疫とは何かを理解し、作用する各因子(血球や免疫物質)について知識を深める				
29	免疫	後機構 ②	免疫反応と自己免疫疾患の関係、具体的な症状とその治療などの概略が理解できる				
30	植物機能	生理学の要点	ホメオスターシスを維持する植物体	幾能について概要	厚を理解できる		
i	教科書		リテーション基礎講座 生理学 薬出版:電子教科書棚内)	履修条件	電子教科書にて授業を進行する PCを用意すること30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない		
:	参考書		準テキスト第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター)	留意事項等	できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと		
成	・中間テスト (3 成績評価 ・欠席数が規定筆		ト(30点分)を実施する 30点満点)の結果と定期テスト(70点満点)の結果を総合して成績に反映させる 節囲を超えた場合(全出席数の1/5を終えた場合)定期試験を受験できないので なり留年することになるので注意すること				
	備考						

			選択	☑ 必修		□講義	☑ 演習 □	実習
	科目名			教員氏名	1	単位	配当年次	開講期
	生理学演	羽白		石田 裕二 (実務経験教員)		1	1	後期
	授業概要		E理学演習 理解を深め	子では生理学で学んだ知識を りる	体的	に演習を通じて体	- 験し,臨床に必要	要不可欠な知識の
	到達目標		高床現場に がる技能を	必要な基礎的な知識と技術(バイタルサインの計測など)を習得し,専門領域につな 習得する				
				授業計	画			
1	循環器	器系の言	十測	循環動態と血圧の関係を理解し医学的根拠を持って血圧を計測することができる				
2	心官	電図 (D	心電図の基礎的なメカニズムを理解することができる				
3	心電図 ②			標準12誘導と胸部単極誘導に	こつい	て臨床的意味を記	説明できるように:	なる
4	心電図 ③			異常心電図と正常心電図を比	比較し	,病的問題点を評	平価できるようにフ	なる
5	心事	電図 (1)	標準12誘導を具体的に計測し	」 ,そ	の臨床的技術を習	習得する	
6	呼吸器系 ①			呼吸器疾患の臨床像とスパイ	イログ	ラムの関係を理解	罪できる	
7	呼吸器系 ②			スパイログラムを用いた肺機	幾能の	計測を体験し理解	罪を深める	
8	8 呼吸循環 ①			有酸素運動と無酸素運動,A	Τポイ	ントなどの意味で	を理解する	
9	9 呼吸循環 ②			運動負荷試験を体験し臨床的	勺意義	や基礎的知識を習	習得する	
10	筋管	電図 (1)	筋電図の波形についてその意味を理解できる				
11	筋管	電図 ②	2	筋電図データの解析についてその意味と手法を理解できる				
12	筋電	電図 🤇	3)	表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる				
13	筋管	電図 (4	4)	誘発筋電計を用いてF波やH波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める				
14	筋管	電図 🤅	5)	誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し,臨床的意義を理解する				
15	感覚検査			表在・深部感覚の具体的な記	十測か	ら,神経障害の症	巨状についての理解	解を深める
17.	教科書		! リテーション基礎講座 生理 薬出版:電子教科書棚内)	学	履修条件		を進行する PCを用 義なので,4回以上欠 受験できない	
ź	参考書		撃ニキスト第3版新しい解剖 学映像教育センター)	生理	留意事項等	できるだけ欠席やを怠らないこと	せず,予習復習	
成	成績評価			なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる				
	備考							

				2 必修		☑ 講義	□ 演習 □	実習	
	科目名	7		教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	人間発達	堂		相馬 栄大 (実務経験教員)		1	1	前期	
	授業概要			る過程について中枢神経系の ステージでの理学療法士・作				至るまでを理解	
	到達目標		新生児期か	らの発達過程に関わる神経系の理解と身体活動について理解できる					
				授業計画	画				
1	正常発達に	ついて	C	発達の原則、ヒトの正常発達について					
2	発達の概念	·		胎芽と胎児の発達過程に始まり、人間発達期、発達の主な原則などが理解できる					
3	姿勢反射、	反応と	とは	発達過程における反射・反応 経の成熟、筋と骨格の成長に			な発達の獲得の背	景である中枢神	
4	脊髄レベルの反射			正常児の脊髄レベルの反射にきる	こついて	出現時期、消失	失時期、どのよう;	な反射かを理解で	
5	脳幹レベル	•の反射	Ħ	正常児の脳幹レベルの反射に きる	こついて	出現時期、消失	失時期、どのよう;	な反射かを理解で	
6	中脳レベルの反応			正常児の中脳レベルの反応に きる	こついて	出現時期、消失	失時期、どのよう;	な反射かを理解で	
7	中間試験 大脳レベルの反応①			講義の1~7回目の内容につ	ついて中間	間テスト(30分	分程度)を行う		
8	大脳レベルの反応②			正常時の大脳レベルの反応に きる	こついて	出現時期、消失	失時期、どのよう;	な反射かを理解で	
9	運動の発達①			1~3歳までに見られる姿勢	ぬ反射おん	よび反応獲得に	こついて理解でき	3	
10	運動の発達②			6歳までに見られる姿勢反射および反応獲得について理解できる					
11	上肢機能の	発達		ヒトの上肢機能を学び、成長過程次獲得できる運動等について理解できる					
12	感覚・知覚 の発達	· 認知	印・社会性	環境の刺激情報処理である感覚、知覚、認知について学び、感覚システムの発達について理解できる					
13	ADLの発達(遊び・食事・ 排泄・更衣)			中枢神経系の発達と日常生活活動動作(ADL)の獲得の関係性を理解できる					
14	発達検査			遠城寺式乳幼児分析的発達検査、日本版デンバー式発達スクリーニング検査、日本版 ミラー幼児発達					
15	学童・青年 の発達	・成力	人・老年期	エリクソン「8つの発達段階	皆」につい	いて理解できる	3		
	教科書 一			- 8 イラストでわかる人間発達的 ■ - - - - -	学	履修条件	前講義の1/5以 と単位を取得で		
	参考書			適宜小テストを不定期に行うで授業で行った部分の理解・ 識の補完を常に行うこと				部分の理解・知	
Б.	 找績評 価			、適宜小テストを実施する。 中間および期末試験、提出物を絲	後合しては	結に反映させる	3		
	備考			解度アンケート、不定期な小				迎する。	

	□ 選択 ☑ 必修 ☑ 講義 □ 演習 □ 実習						
	科目名		教員氏名		単位	配当年次	開講期
	運動学		羽澤 晃士 (実務経験教員)		2	1	前期
	授業概要	体運動を理解	運動の仕組みに関する学問であり, するうえで必要な運動器の基本構造 習し,機能解剖学的視点から四肢,	もと機能を	:学ぶ。さらに,身(体各部位の関節構造と	:機能を関節運動と
	到達目標		ションの対象となる運動障害のメカ 神経系)の基本構造と機能を学び, なる。				
		•	授業計画	画			
1	オリエンテー	-ション	本授業の概要ならびに運動学	色の学問	領域について理	解できる	
2	骨の構造と	. 機能	骨格を形成する骨の名称,骨	予の基本	構造と機能につ	いて理解できる	
3	関節の構造と	· 機能①	関節の基本構造, 関節の分類	頁につい	て理解できる		
4	関節の構造と	:機能②	関節運動の表し方,関節包内	nにおけ	る関節運動につ	いて理解できる	
5	関節の構造と	送機能③	主要な関節とその運動方向に	こついて	理解できる		
6	骨格筋の構造	と機能①	骨格筋の構造について理解で	ごきる			
7	骨格筋の構造	と機能②	筋の収縮機序,活動電位につ	いて理	解できる		
8	骨格筋の構造	と機能③	筋線維の種類,運動単位,神経支配比について理解できる				
9	骨格筋の構造	と機能④	筋の収縮様式,筋のはたらき	5,筋肥	大と筋萎縮につ	いて理解できる	
10	骨格筋の構造	と機能⑤	筋の静止張力と活動張力につ	いて理	 解できる		
11	11 生体力学①		関節モーメント,外力と内力]につい	 て理解できる		
12	12 生体力学②		身体とてこ,筋力と重力について理解できる				
13	13 体位と重心①		体位と構え,基本肢位,重心が規定される要素について理解できる				
14	体位と重	,ù@	基本的立位姿勢の理想的アラ	ライメン	トについて理解	できる	
15	肩複合体の週	重動学①	肩複合体の構造について理解	解できる			

18	16	肩複合 [。]	体の運動学②	肩複合体の関節運動について理解	できる			
19	17	肩複合 [。]	体の運動学③	肩複合体の関節運動における靭帯の作用について理解できる				
20 肘関節・前腕の運動学② 肘関節・前腕の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 手関節の運動学③ 手関節の構造、関節運動について理解できる 手指の運動学② 手関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 手指の運動学② 手指関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 24 手指の運動学② 手指関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 投関節の運動学③ 投関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 投関節の運動学② 投関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 投関節の運動学③ 上関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 接関節の運動学② 接関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 上関節の運動学③ 上関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる と関節の運動学③ 上関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる と関節の運動学③ と関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる と関節の運動学③ と関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる と関節の運動学② と関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる なりには、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	18	肩複合 [。]	体の運動学④	肩複合体の関節運動における筋の作用について理解できる				
21 手関節の運動学① 手関節の構造,関節運動について理解できる 22 手関節の運動学② 手関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 23 手指の運動学① 手指関節の構造,関節運動について理解できる 24 手指の運動学② 手指関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 25 股関節の運動学② 股関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 26 股関節の運動学② 膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 27 膝関節の運動学② 膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 28 膝関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 29 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 30 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 30 上基礎運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる	19	肘関節・	前腕の運動学①	肘関節・前腕の構造, 関節運動に	ついて理解できる	3		
22 手関節の運動学② 手関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 23 手指の運動学① 手指関節の構造, 関節運動について理解できる 24 手指の運動学② 手指関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 25 股関節の運動学② 股関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 26 股関節の運動学② 膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 27 膝関節の運動学② 膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 28 膝関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 29 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 30 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 教科書 ・基礎運動学	20	肘関節・	前腕の運動学②	肘関節・前腕の関節運動における	扨帯および筋の作	作用について理解できる		
23 手指の運動学① 手指関節の構造,関節運動について理解できる 24 手指の運動学② 手指関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 25 股関節の運動学② 股関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 26 股関節の運動学② 膝関節の構造,関節運動について理解できる 27 膝関節の運動学① 膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 28 膝関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 29 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 30 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 教科書 ・基礎運動学	21	手関節	節の運動学①	手関節の構造, 関節運動について	里解できる			
24 手指の運動学② 手指関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 25 股関節の運動学② 股関節の関節運動について理解できる 26 股関節の運動学② 股関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 27 膝関節の運動学① 膝関節の関節運動について理解できる 28 膝関節の運動学② 膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 29 足関節の運動学① 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 30 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 教科書 ・基礎運動学	22	手関節	節の運動学②	手関節の関節運動における靭帯お。	よび筋の作用につ	ついて理解できる		
25 股関節の運動学① 股関節の構造,関節運動について理解できる 26 股関節の運動学② 股関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 27 膝関節の運動学① 膝関節の構造,関節運動について理解できる 28 膝関節の運動学② 膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 29 足関節の運動学① 足関節の構造,関節運動について理解できる 30 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 数科書 ・基礎運動学	23	手指	の運動学①	手指関節の構造,関節運動について	て理解できる			
26 股関節の運動学② 股関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 27 膝関節の運動学① 膝関節の関節運動について理解できる 28 膝関節の運動学② 膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 29 足関節の運動学① 足関節の構造、関節運動について理解できる 30 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 教科書 ・基礎運動学 複修条件 30回の講義なので、7回以上	24	手指	の運動学②	手指関節の関節運動における靭帯に	および筋の作用に	こついて理解できる		
27 膝関節の運動学① 膝関節の構造,関節運動について理解できる 28 膝関節の運動学② 膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 29 足関節の運動学① 足関節の構造,関節運動について理解できる 30 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 教科書 ・基礎運動学	25	股関節	節の運動学①	股関節の構造, 関節運動について	里解できる			
28 膝関節の運動学② 膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 29 足関節の運動学① 足関節の構造,関節運動について理解できる 30 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 数科書・基礎運動学 30回の講義なので,7回以上	26	股関節	節の運動学②	股関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる				
29 足関節の運動学① 足関節の構造,関節運動について理解できる 30 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる * 教科書 ・ 基礎運動学 30回の講義なので,7回以上	27	膝関節	節の運動学①	膝関節の構造,関節運動について理解できる				
30 足関節の運動学② 足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる 教科書 ・基礎運動学 30回の講義なので、7回以上	28	膝関節	節の運動学②	膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる				
Name	29	足関節	節の運動学①	足関節の構造,関節運動について理解できる				
教科書 基礎運動学 複修条件 履修条件	30	足関節	節の運動学②	足関節の関節運動における靭帯お	よび筋の作用につ	ついて理解できる		
	į į	教科書 ・基礎運動学			履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席 すると期末試験を受験できない		
参考書 ・15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキ 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復 スト 運動学 おらないこと	÷	参考書		シリーズ 理学療法・作業療法テキ	留意事項等	できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと		
・30回の講義のなかで,適宜小テストを実施する ・小テスト,期末試験の結果を総合して成績に反映させる	成				させる			
備考		備考						

	[2 必修	□ 講義	✓ 演習 □	実習		
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期		
	運動学演習		羽澤 晃士 (実務経験教員)	1	1	後期		
	授業概要	作の仕組み	たき,正常な身体運動を理解するうえで必要な運動器の基本構造と機能を学び,身体運動・動 について理解を深める。また,正常歩行に関する基本的な知識を身につけるとともに,各関節 用する筋が即座にイメージできるよう演習課題を実施する。					
	到達目標	1	顔面・頭部における各関節運動の仕組みについて説明できるようになる。また,歩行の動作な基本的な知識について理解するとともに,各関節運動時に作用する筋を挙げることができる					
		•	授業計	画				
1	脊柱・体幹の	運動学①	脊柱全体の基本構造と機能に	こついて理解できる				
2	 脊柱・体幹の	運動学②	頸椎の構造, 頸部の運動と関	見与する筋の作用につい	て理解できる			
3	脊柱・体幹の	運動学③	胸郭の構造,胸部の運動と関	与する筋の作用につい	て理解できる			
4	脊柱・体幹の	運動学④	腰椎の構造,腰部の運動と関	与する筋の作用につい	て理解できる			
5	顔面と頭部の)運動学	顎関節の構造と関節運動, 咀	咀嚼筋と顔面筋(表情筋)の作用について	理解できる		
6	正常歩行①		正常歩行の基本概念(歩行周	別期)について理解でき	3			
7	正常歩行	Ī2	正常歩行時の重心移動や各関節運動について理解できる					
8	正常歩行	Ţ ③	正常歩行時の筋活動について理解できる					
9	正常歩行	Ţ 4)	正常歩行時の床反力について理解できる					
10	上肢の筋作用①							
11	上肢の筋作用②		上肢の関節運動時における筋作用を挙げることができる					
12	上肢の筋作用③							
13	下肢の筋作用①							
14	下肢の筋化	手用②	下肢の関節運動時における筋作用を挙げることができる					
15	下肢の筋化	手用③						

教科書	・基礎運動学	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると期末試験を受験できない
参考書	・15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学	留意事項等	できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで,適宜小テスト,課題作成を・小テスト,期末試験,提出物の結果を総合して成		
備考			

			選択] 必修		講義		 実習
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期
	臨床運動学	演習		千葉 馨 (実務経験教員)		1	2	前期
	授業概要)学で学習した内容を臨床的視				集, 演習を行う.
	32217702	演	習はテー	マごとに小グループに分かれ	,分析	結果をレポート	にまとめること.	
	到達目標	健	常者の基	本動作パターンを理解し,動	か作分析	を行い他者に訪	説明することができ	きる.
				授業計画 T	曲			
1	オリエン	ンテーシ	ョン	本科目の概要や学習目標につ	ついて理	関解し,基本動作	作の動作分析を経り	険する .
2	動作	分析概論	侖	動作分析の目的とその捉え方	うについ	いて学び, 理解を	と深める.	
3	グルー	プワーク	71					
4	グルー	プワーク	72					
5	グルー	プワーク	73	 寝返り動作・起き上がり動作 小グループに分かれ各動作分				
6	グルー	プワーク	74	健常者における運動パターンレポート・パワーポイントに	/の比較	でを行い		,
7	グルー	プワーク	75					
8	グルー	プワーク	76					
9	ディスク	カッショ	ン①					
10	ディスク	カッショ	ン②	小グループ毎に,これまでま	ミとめた	:資料をもとにフ	プレゼンテーション	/を行い,
11	ディスク	カッショ	ン③	他のグループの質疑を受け自	身の理	解を深める.		
12	ディスク	カッショ	ン④					
13	200.0	有する症 作分析①	, ,	実際の症例の動作パターンを	・観察し	,, 正常パターン	ィとの違いについ ^っ	て言及すると
14	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	有する症 乍分析②	, ,	ともに,改善点について考察	終するこ	とができる.		
15		まとめ		13・14回で実施した内容をも	もとにし	 レポートを作成し	 し,理解を深める	
į	教科書			基礎運動学 第6版 対隆一ら 医歯薬出版		履修条件	15回の講義なので欠席すると定期試	
- -	参考書			未定 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習 を怠らないこと				
成	え績評価	・出席日	日数,グル	レープワーク取り組み状況,持	受業態度	き,レポートをも	もって成績を判定	する.
	備考	グルーフ	プワークを	と実施するため,グループ全員	員が役害	をもって主体的	りに講義に参加す ²	ること.

			選択 ☑			□講義	☑ 演習 □	実習		
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	機能解剖学	海習		千葉 馨 (実務経験教員)		1	2	後期		
	授業概要			動学の知識を統合し,身体運動を 担当教員の臨床における作業療法 引する。						
	到達目標		・筋骨格系	その知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。						
	ı			授業計画						
1	外皮系の	の構造	と機能	外皮の構造と機能を理解す	るとと	もに、分布する	感覚受容器につい	て説明できる。		
2	骨格	系の棒		各骨の名称や関節について	説明で	゙ きる。				
3	肩甲帯 構え	・肩閉 造と運		肩関節を構成する骨格・靭 を説明できる。	帯を見	し直し,肩甲帯な	らびに肩関節の構	造・運動・特徴		
4	肘関節・	手関節	・手指の	肘関節・手関節・手指を構	成する	骨格・靭帯を見	直し,これらの構	造・運動・特徴		
4		造と運		を説明できる。						
5		・股関 造と運		骨盤・股関節を構成する骨きる。	格・靭]帯を見直し,こ	れらの構造・運動	かけっぱいかいます。		
6	膝関節		関節の	膝関節・足関節を構成する できる。	骨格・	靭帯を見直し,	これらの構造・運	動・特徴を説明		
7	,	と記 足部の 造と運		足部を構成する骨格・靭帯を見直し、これらの構造・運動・特徴を説明できる。						
8		構造総		骨格構造について各骨の名 きる	称や形	/状,特徴,連結	について骨格模型	と用いて説明で		
9	肩甲帯・肩 与す ²	 関節の る筋と		肩甲帯・肩関節に作用する筋を見直し、これらの運動を説明できる。						
10	肘関節・手 動に関与			肘関節・手関節・手指に作用する筋を見直し、これらの運動を説明できる。						
11	骨盤・股関 する	節の選		骨盤・股関節に作用する筋を見直し、これらの運動を説明できる。						
12	膝関節・足 与する	と関節の る筋と		膝関節・足関節に作用する	筋を見	直し,これらの	運動を説明できる	0 0		
13	足部 関与す	3の運動 -る筋と		足部に作用する筋を見直し	, これ	らの運動を説明	できる。			
14		神経系 と支配		運動の情報を伝える末梢神 いて説明できる	経系の)構造,特に神経	叢について理解し	, その分布につ		
15	筋	5総復習	IZ E	各筋の起始・停止・作用を	説明で	ぎきる				
, in	教科書		授業は配	布資料に基づいて実施する		履修条件	15回の講義なのですると定期試験を			
14.	参考書			: グレイ解剖学 原著第4版 留意事項等 基礎運動学 第6版補訂						
成	成績評価			期末試験の内容をもって総合的に評価する 以上を合格とする						
	備考			布するので忘れずに授業に持ってくること を質問するなど教員をうまく活用し、知識の定着に努めること						

				3 必修	☑ 講義	□ 演習 □	実習		
	科目名	İ		教員氏名	単位	配当年次	開講期		
	神経障害	学丨		佐藤 速太 (実務経験教員)	1	2	前期		
	授業概要			OT・PTの治療対象の中核をな 科目は神経解剖から症候学まっ					
	到達目標		神経系の構	清造と機能を熟知し,様々な症候を医学的に理解できるようになる					
			I	授業計画	Ī				
1	神経機	能解	剖 ①	中枢神経系(脳・脊髄)の解	剖,伝導路,が理解	できる			
2	神経機	能解	剖 ②	脳神経を再確認して、その機能	能について理解を深	め,各疾患によりタ	発生する障害や症		
3	神経機	能解	剖 ③	状について神経学的に説明で	きる				
4			ョンに深く 経症状	上位運動ニューロン障害や下 神経学的サインを理解できる		害の症状の相違点	を理解したうえで		
5	神経	定候学	<u>4</u> (1)	「反射学」をベースにしたク 推測できるようになる	ライアントの神経学	的な反応を理解し,	障害の本質が		
6	神経	定候学	<u>4</u> 2	大脳基底核や小脳の障害によって生じる錐体外路障害について理解し、疾患や臨床所 見を想像できるようになる。					
7	神経	定候学	<u>4</u> 3	中枢神経の損傷によって生じ 測できるようになる	る脳血管疾患などの	中枢神経疾患にまっ	つわる障害像を推		
8	振	り返	ij	前半部分で理解した中枢神経	系をまとめ、知識の	確認を行う			
9	神経変性疾	患の	症候学 ①	認知症など大脳皮質の変性に きる。	よって生じる疾患の	症状から、神経学的	的な意味を理解で		
10	神経変性疾	患の	症候学 ②	前回に引き続き大脳基底核の 理解できる。	変性によって生じる	疾患の症状から、ネ	神経学的な意味を		
11	神経筋疾	患	各論 ①						
12	神経筋疾	患	各論 ②						
13	神経筋疾	患 :	各論 ③	リハビリテーションと深くか げ,理学療法や作業療法の具					
14	神経筋疾	患	各論 ④						
15	神経筋疾	患	各論 ⑤						
	教科書			かえる vol.7 脳・神経 ディックメディア社	履修条件	15回の講義なのでると定期試験を受			
:	参考書	神糸	-	コーズアップ正しい病巣診断のコツ メディカルビュー社 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと					
成	・15回の講義の 成績評価			のなかで、適宜小テストを実施する テストの結果を総合して成績に反映させる					
	備考								

				☑ 必修		☑ 講義	□演習□	実習	
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	神経障害	学Ⅱ		平塚 健太 (実務経験教員)		1	2	前期	
	授業概要		神経障害等	△Ⅰの内容を踏まえ,本科目は	具体的	的な神経疾患とそ	一の症状・治療につ	ついて論じる	
	到達目標			- ーションに必要な神経疾患の理解を深め,専門領域で治療学に応用できる知識を習得 5用できるようになる					
				授業計画	画				
1	脳血'	管疾患	1	多種の脳血管疾患の疫学と診断について理解できる					
2	脳血管	管疾患	2	脳血管疾患に起因する症状や	治療法	法について理解で	できる		
3	脳:	卒中	1	脳卒中の危険因子・脳卒中の	分類	及び特徴について	て理解できる		
4	脳:	卒中	2	脳卒中の分類別における症状	で治	療について理解で	できる		
5	脳	卒中	3	脳卒中の急性期における治療	寝や特	徴について理解で	できる		
6	脳	卒中	4	脳卒中の急性期におけるリス	ク管	理について理解で	できる		
7	脳:	卒中	(5)	脳卒中の回復期及び維持期に	脳卒中の回復期及び維持期における治療や特徴について理解できる				
8	認知症/高	次脳植	幾能障害①	認知症・失語症・失認・失行	等の	高次脳機能障害 <i>0</i>)特徴について理解	解できる	
9	認知症/高	次脳板	幾能障害②	認知症・高次脳機能障害の治療・姿勢定位障害について理解できる					
10	パー	キンン	/ ン病	高齢者によくみられるパーキンソン病の症状や治療法を説明できる					
11	神経	筋疾患	ā 1)	筋ジストロフィーやALSの特徴について理解できる					
12	神経	筋疾患	2	各種の変性疾患(SCD・MS・PSP等)について理解できる					
13		F髄損′	怎	脊髄損傷の症状、高位診断、	神経	学的評価法などを	ご説明できる		
14	医用	画像	1)	The The and I have been a second			E-W//		
15	医用	画像	2	- 実際の症例や画像情報などか	`ら症	状・障害を推測し)医学的に考察で	きる	
	教科書		病気	」 がみえる vol.7 脳・神経		履修条件	15回の講義なのでると定期試験を受		
;	参考書			適宜提示		留意事項等	できるだけ欠席せ らないこと	ず,予習復習を怠	
月	成績評価			なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる					
	備考			筋ジストロフィーや	ALS@)特徴について理	解できる		

] 選択 🖫	☑ 必修		☑ 講義	□ 演習 □	実習
	科目名	I		教員氏名	I	単位	配当年次	開講期
	精神医学	学		石田 裕二 (実務経験教員)		1	1	後期
	授業概要			ーる基礎知識から病理までの知 できるよう講義を行う	識を	身に着け, リハビ	: ブリテーションを !	前提に理解を進め
	到達目標		精神につい うになる	いて,精神医学についての理 解	な 深。	め, リハビリテー	-ションと関連し7	た思考ができるよ
		Į.		授業計	画			
1	松	論(1)	精神医学とは何か,その概略	各を理	解できる		
2	総	論 (2)	精神疾患の分類,症状論,検査	,神経	経症性障害とその周	辺疾患について概略	各を理解できる
3	総	論 (3	様々な治療(薬物療法,精神 行動療法など)について,そ			/ョン,心理学的	アプローチ,認知
4	総	論 (4	認知症,器質性精神病,薬剤	刊性精	神障害について理	里解できる	
5	各論(1) 気	分障害	気分障害の分類や症状につい	へて理	解できる		
6	各論 ②)統領	合失調症	統合失調症の分類や症状につ	ついて	理解できる		
7	各論 ③	神経	症性障害	様々な神経症領域の障害につ	ついて	,その症状や環境	竟要因の関係など	を理解できる
8	各論(④ 人	格障害	様々な人格障害について、そ	その症	状や環境要因の関	関係などを理解で	きる
9	各論	(5) 1:	衣存症	アルコール依存や薬物依存な	ょどのシ	病態とそれらの治	☆療について理解で	できる
10	各 自閉症:	論(スペク	_	自閉症スペクトラム症(ASE)) や	広汎性発達障害に	こついて理解でき	5
11	各論(⑦ て	んかん	てんかんの分類や症状につい	て理論	解できる		
12	各論	8	認知症	認知症の原因疾患,分類,症	を状の	特徴などが理解で	できる	
13	治组	寮学	1	各種の精神疾患に対する治療	的介.	入法(薬物療法,	精神療法,心理學	学的アプローチ,
14	治组	寮学	2	作業療法など)について,其	月待で	きる効果について	て理解できる	
15	リエゾ	ン精神	伸医学	リエゾン精神医学における作	F業療	法士・理学療法士	 _の役割について ³	理解できる
N.	教科書		精神医学	第4版增補版(医学書院)		履修条件	15回の講義なの席すると定期試験	で,4回以上欠 験を受験できない
Ä	参考書	*	青神医学テ	キスト 改訂第5版(南江堂)		留意事項等	できるだけ欠席 ⁻ を怠らないこと	せず,予習復習
成	說績評価			なかで、適宜小テストを実施 果と定期テストの結果を総合		績に反映させる		
	備考							

				☑ 必修		 ☑ 講義	□ 演習 □	 実習		
	科目名	ı		教員氏名	1	単位	配当年次	開講期		
	運動器障	害学		平塚健太 石川竜乃介 (実務経験教員)		1	2	前期		
	授業概要		運動器に組	纏わる疾患について発生と治療法について知り,理解できるよう講義を行う						
	到達目標		多様な運動	動器疾患の症状と治療法について知り,具体的な作業療法・理学療法の治療技術をイ きる						
			•	授業計	画					
1	総論① 軟骨・関		発生と成長 基本構造	骨の発生と成長と軟骨・関節	の基	本構造について理	1解できる			
2	総論② 神経損傷	・末村	肖神経障害	末梢神経障害の症状と治療について理解できる						
3	各論①	肩・_	上肢	肩に見られる様々な疾患の症 解できる	を状や	障害について学び	が,整形外科的な流	治療について理		
4	各論②	肩・_	 上肢	肘に見られる様々な疾患の症 解できる	主状や	障害について学び	薬, 整形外科的な流	- 台療について理		
5	各論③	肩・_	上肢	前腕・手に見られる様々な粉 いて理解できる	実患の	症状や障害につい	いて学び, 整形外科	料的な治療につ		
6	各論⑤股	関節	・膝・足部	変形性股関節症の診断(画像	象) と	観血的治療やその)他について理解で	できる		
7	各論⑥股	関節	・膝・足部	変形性膝関節症の診断(画像)と観血的治療やその他について理解できる						
8	各論⑥股	関節	・膝・足部	靭帯損傷の診断(画像)と観血的治療やその他について理解できる						
9	各論⑦股	関節	・膝・足部	下肢の骨折 (大腿骨頸部骨折等)の診断 (画像) と観血的治療やその他について理解できる						
10	各論⑧股	関節	・膝・足部	切断の診断(画像)と観血的治療やその他について理解できる						
11	各論⑨	脊柱級	美患	圧迫骨折・破裂骨折・狭窄症 きる	生の診	断(画像)と観血	1的治療やその他に	こついて理解で		
12	各論⑩	脊柱級	美患	頚髄症・末梢神経障害(上肌 いて理解できる	支を中	心に)の診断(画	画像)と観血的治療	きやその他につ		
13	各論①	脊柱級		腰痛・椎間板ヘルニアの診断	沂(画	像)と観血的治療	そやその他について	て理解できる		
14	各論⑨	褥肦		褥瘡の病態について理解を滲	深め,	それらの診断や治	☆療法について概略	各を理解できる		
15	各論⑩	熱係	包	熱傷の深度や面積の判定, 気の治療法について概略を理解			態について理解を	と深め,それら		
, iv	教科書		病気がみえ	。 - るvol.11 運動器・整形外科		履修条件	15回の講義なので, ると定期試験を受験			
	参考書			検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠らないこと						
成	え続評価			りなかで、適宜小テストを実施する 吉果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる						
	備考									

				② 必修		☑講義	□ 演習 □	実習		
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	脳神経科	·学		千葉 馨 (実務経験教員)		1	1	後期		
	授業概要			代のとなっている昨今, リハ について論じる	ビリ	テーションおよひ	[、] 臨床研究に生かす	ことができる脳		
	到達目標		脳機能と働	動きについて身体と感覚の観点から理解できる						
				授業計画						
1	脳神経科等	学オリ ション		作業療法士が脳機能と脳科学	⊴につ	いて学ぶ意義を理	里解できる			
2	脳解	剖と信	動き	脳の解剖と機能局在を中心と	こした	働きについて理解	望できる			
3	脳	iと感覚	覚	感覚、知覚、認知について理	里解で	きる 2点識別演	習を通して感覚に	ついて学ぶ		
4	周凶	と記憶	·····································	脳の働きの主軸である記憶に いて理解できる	こつい	て理解できる i	己憶の種類と記憶と	<u> </u>		
5	神経の	の可塑	性①	神経の可塑性について概要を 解できる。	理解	できる。学習理論	命の復習をとおして	脳の可塑性を理		
6	神経の	の可塑	性②	非陳述記憶の研究を通し、神	神経の ゚	可塑性について理	里解を深めることだ	ができる。		
7	神経の	の可塑	性③	神経の可塑性についてシナプス間でどのような変化が起きているのかを理解できる						
8	中原 身体図式。	間テス と身体		身体図式と身体イメージにつ	いて	理解できる				
9	運動制御。	と身体 ②	イメージ	空間処理情報に基づいた手の制御システムについて理解できる						
10	運動制御。	と身体 ③	イメージ	身体所有間について理解できる						
11	運動	主体感	1	運動主体感とは何か、7またその責任領域(運動イメージの神経基盤と脳機能について)についての理解ができる						
12	運動主	主体感	2	運動イメージを育むためのリ	ハビ	リテーションにつ	いて理解できる			
13	運動学習の	神経	メカニズム	運動学習とシークエンスにつ	ついて:	理解できる				
14	脳神経科学			ニューロリハビリテーション	んつ	 いて理解できる	CI療法、川平法			
15	脳神経科学	_		ニューロリハビリテーション	/につ	 いて理解できる	BMIやロボットリ			
:	教科書			適宜, 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので, 3[ると定期試験を受験でき						
:	参考書			ノョンのための 脳・神経科学入門 留意事項等 脳機能について講義内の知識を補完 すること						
月	成績評価			りなかで、適宜小テストを実施する 0点、期末テスト70点のトータル100点で成績を判定する						
	備考									

		□ 選択	☑ 必修		□ 講義	☑ 演習 □	実習			
	科目名	1	教員氏名		単位	配当年次	開講期			
	症例検討演	習	千葉馨・佐藤速太・西村大地・石川竜乃 (実務経験教員)	介	1	2	後期			
	授業概要	,	也職種との連携を主体にケース課題や事例について考えを表出できるよう演習を行うの 発言を期待する							
	到達目標	同職種,	他職種との連携を主体にケース	職種との連携を主体にケース課題や事例について分析・考察し,考えを表出できる						
			授業計	画						
1	オリエ	ンテーション	他職種連携を主体に考え、合	3理的	かつ実践的なチー	-ム医療について理	2解できる			
2	役割分担	望について ①	OT・PT・STの分業や協業に	つい	て事例に基づき学	空習し理解できる				
3	役割分担	型について ②	OT・PT・STの分業や協業,	さらし	に多職種との具体	s的な分業について	理解できる			
4	症例	検討 ①	脳卒中片麻痺の症例についてディスカッションおよび発表できる(症例は若年層)							
5	症例	検討 ②	脳卒中片麻痺の症例について	脳卒中片麻痺の症例についてディスカッションおよび発表できる(症例は高齢者)						
6	症例	検討 ③	進行性神経難病の症例につい	進行性神経難病の症例についてディスカッションおよび発表できる						
7	症例	検討 ④	脊髄損傷(頚髄損傷)の症例	引につ	いてディスカッシ	/ョンおよび発表て	いきる			
8	症例	検討 ⑤	脊髄損傷(腰髄損傷)の症例	引につ	いてディスカッシ	/ョンおよび発表て	*きる			
į	教科書		配布資料にて対応する		履修条件	1/5以上欠席する 験できない	と定期試験を受			
;	参考書		検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復 念らないこと							
月	戈績評 価	提出物、講義創	態度を総合評価して判定する							
	備考									

		□ 選択	☑ 必修		□ 講義	☑ 演習 □	実習			
	科目名	1	教員氏名		単位	配当年次	開講期			
	症例検討演	習	千葉馨・佐藤速太・西村大地・石川竜乃: (実務経験教員)	介	1	2	後期			
	授業概要		他職種との連携を主体にケース 発言を期待する	、課題が	事例について考	えを表出できるよ	う演習を行うの			
	到達目標	同職種,	他職種との連携を主体にケース	、課題が	事例について分	析・考察し,考え	を表出できる			
			授業計画							
1	オリエ	ンテーション	他職種連携を主体に考え、合理的かつ実践的なチーム医療について理解できる							
2	症例	検討 ①	整形外科疾患の症例について	整形外科疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる						
3	症例	検討 ②	回復期リハビリの症例におい	ヽて, C	T・PT・STの役	割をディスカッシ	ョンできる			
4	症例	検討 ③	回復期リハビリの症例につい	回復期リハビリの症例について,OT・PT・STの役割を発表できる						
5	症例	検討 ④	回復期リハビリの症例につい	回復期リハビリの症例について,OT・PT・STの具体的目的と介入法を発表できる						
6	症例	月検討 ⑤	認知症の症例についてOT・F	認知症の症例についてOT・PT・STの役割をディスカッションできる						
7	症例	月検討 ⑥	認知症の症例についてOT・F	PT · S	「の具体的な目的	と介入法を発表で	゚きる			
8	症例	検討 ⑦	精神科領域の症例(デイケア きる	▽患者も	う含む)について	ディスカッション	および発表がで			
8	症例	検討 8	実習前における症例検討につ	ついて						
:	教科書	i	- 配布資料にて対応する		履修条件	1/5以上欠席する 験できない	と定期試験を受			
:	参考書		検討中	検討中 留意事項等 だきるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと						
反	戈績評価	提出物、講義創	態度を総合評価して判定する			_	_			
	備考									

		□ 選	択 ☑	2 必修		☑ 講義	□演習□	実習			
	科目名	i		教員氏名		単位	配当年次	開講期			
11.7	ヽビリテーシ	っい輝金		佐藤 速太		1	1	前期			
97	、ヒリナーシ	コ / 「妖神		(実務経験教員)		1	1	月J 共力			
	授業概要	リハ	ビリテ	ーションの理念・概要につい	へ、F	PT・0Tとリハビ	リテーションに関	わる専門職との			
	汉米州及	連携	などに	ついて理解できるよう講義・	ついて理解できるよう講義・グループワークを行う。						
	到達目標			ーションの理念をふまえ,具	体的机	な障害例に対する	リハビリテーショ	ンに関わる専門			
	- 3,00,0	職と	の連携	などについて理解できる。							
				授業計 T	画						
1	リハビリ	テーション	とは	リハビリテーションの語源・	定義,	目的について理	1解する。				
2		福祉に関わ ・チーム医		医療及び保健・社会福祉に関	目わる!	専門職とチーム医	を 擦について調べる				
3		福祉に関わ ・チーム医療		医療及び保健・社会福祉に関	関わる □	専門職とチーム医	療について調べる				
4	障	害モデル		障害モデル(ICIDH、ICF)について理解できる。							
5	障	害モデル		障害モデル(ICIDH、ICF)について理解できる。							
6	ICFフし	レームワー 2	7	症例を通してICFフレームワークを実践できる。							
7	ノーマラ	イゼーショ	ン	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて理解できる。							
8	総	合演習		これまで学んできたことをも できる。	とに、	リハビリテーシ	ョンについて説明	することが			
=	教科書		必	要に応じて提示する		履修条件	8回の講義なのでと定期試験を受験	*3回以上欠席する 倹できない			
á	参考書			必要に応じて提示する 留意事項等							
成	対 績評価	・グループ	゚゚゚゚゚ヮ゠ゟ	7や課題への取り組み、テス	トを成	―――― 績に反映する。					
	備考										

			選択 ☑			 ☑ 講義	□ 演習 □	 実習	
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	リハヒ゛リテーション	医学		佐藤 速太 (実務経験教員)		1	1	後期	
	授業概要			ーション医学が対象とする疫 についてそれらを理解し,!					
	到達目標			ーション医学が対象とする疫		窗卒中, 頭部外傷	5,脊髄損傷,脳性	生麻痺,変性疾	
		75%	, 2214173	授業計					
1	オリエン	ノテーシ	ョン	 Jハピリテーションを学ぶにあたり,	基本回	的な用語やポイン	・トについて理解で	できる	
2	リハビリテ かかわる:			2回にわたり、筋骨格系の構					
3	リハビリテ かかわる;			能(上位運動ニューロンと) と照らし合わせて理解できる		助埋期−ユ−ロン	一 加工中が正なでナイ	₹ 学 円 別 な 址 仏	
4	脳血管	京疾患	1	CI(脳梗塞),CH(脳出血),S ンに関係する症状について概			ついて学習し、り	リハビリテーショ	
5	脳血管	京疾患	2	症状と脳の機能局在の関係性 できる	生を学	習し、脳血管疾患	まが引き起こす症物	犬について理解	
6	脳血管	言疾患	3	脳血管疾患により出現する核	ー 様々な[塩床症状について	 [理解できる		
7	======================================	恩知症		認知症の分類,症状について	て理解	し,患者への介 <i>入</i>	、法の概要を理解~	できる	
8	脊髄	損傷(〕	D	育損の病理、高位診断と残 存	字機能(の関係について理	1と解できる		
9	脊髄	損傷(②	2)	 残存機能とADLの関係、OT/ 	/PTの	介入の方法につい	いて理解できる		
10	神経筋	筋疾患	1	神経原性の変性疾患を中心に	こ学習	し、理解を深める	,		
11	神経筋	筋疾患	2	筋原性の疾患を中心に学習し ありない。	ン、理解	解を深める			
12	小児	神経疾患	E	脳性まひ,自閉症スペクトラ 小児期に発症する神経筋疾患					
13	整形外	科疾患	1	骨折・脱臼・変形性関節症, 患について理解を深める	靭帯	員傷,肩関節障害	言など,臨床的に重	重要な運動器疾	
14	整形外	科疾患	2	高齢期に多い運動器疾患や関ンに関係の深い疾患について			のる膠原病など,!	リハビリテーショ	
15		部障害		心疾患、呼吸器疾患について	て理解:	ができる			
· · ·	教科書			「・ナースを目指す人のための ション総論 要点整理と用語類 改訂第3版		履修条件	15回の講義なのすると定期試験な		
,	参考書		必	必要に応じて提示する 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習 を怠らないこと					
成	成績評価			なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる					
	備考								

		□ 選打	尺 ☑ 必修	☑ 講義	□ 演習 □	実習	
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期	
地垣	 包括ケアシ	ステム論	工藤 達也 (実務経験教員)	1	2	後期	
	授業概要		福祉, 地域リハビリテーションを 職種連携による包括的な地域医療			うな授業を展開	
	到達目標	地域包	2括ケアシステムにおける医療の役	は割や医療福祉連携につ	いて理解できる		
		I	授業計	画			
1	地域包括ケアシステム丨		地域包括ケアシステムの概念 ついて理解できる	地域包括ケアシステムの概念や背景,現代における地域包括ケアシステムの重要性に ついて理解できる			
2	地域包括ケアシステム		地域包括支援センターの役割	削や地域包括ケア会議の	の概要を理解できる		
3	ニーズの)把握と理解	対象者(生活者)のニーズの扱	え方やアプローチ方法	を理解できる		
4		ァアシステ <i>L</i> ラピストの後	地域包括における理学療法	上,作業療法士の役割な	を理解できる		
5		種連携・ アプローチ	多職種連携・チームアプロー	-チの理念と意義につい	ヽて理解できる		
6		r アシステ <i>L</i> 会福祉士の後	地域包括ケアシステムにおけ	ける社会福祉士の役割に	こついて理解できる		
7		rアシステ <i>L</i> f護師の役害	地域包括ケアシステムにおり	おける看護師の役割について理解できる			
8		ァアシステム マネジャーの	地域包括ケアシステムにおり	地域包括ケアシステムにおけるケアマネジャーの役割について理解できる			
9	多職種	連携演習丨					
10	多職種	連携演習Ⅱ					
11	多職種	連携演習Ⅲ	多職種連携演習(グループワー	ーク)を通じて,多職種	連携の重要性や各	職種の役割を	
12	多職種	連携演習IV	理解できる				
13	多職種	連携演習V					
14	多職種	連携演習VI					
15	110	きとめ	多職種連携における各職種 <i>の</i> できる)役割および包括的な ^は	也域医療福祉活動の	必要性を理解	
1	教科書		検討中	履修条件	15回の講義なのでると定期試験を受験		
3	参考書		包括ケアにおけるPT・OTの役割 或ケア会議・介護予防事業から学、	留意事項等	できるだけ欠席も 怠らないこと	せず,予習復習	
成	 え績評価	—— 15回の講義	のなかで,適宜課題を実施し,課	題提出や内容を総合し	 て成績に反映させる		
	備考	グループワ-	- クも適宜行う				

	□ 選択 ☑ 必修 ☑ 講義 □ 演習 □ 実習								
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期			
	作業療法概論		西村 大地 (実務経験教員)	2	1	前期			
	授業機要	作業療法の 行う	D成り立ちや歴史について、また社:	会における役割につ	ついて理解できる	よう講義を			
	到達目標	作業療法の	D成り立ちや歴史について、また社	会における役割につ	ついて理解できる				
			授業計	画					
1	オリエンテー	ション	作業療法概論で学習する内容や基	礎科目との関連性を	を理解する				
2	リハビリテーシ	ョンとは	リハビリテーションとは何かにつ	いて理解する					
3	「作業」と	k 1+	作業療法における作業とは何かに	ついて珊姫する					
4		_ Vd	・未原広にわりる 未とは同かに	ブル と 注解する					
5	作業療法と	L 1+	作業療法とは何か・作業療法の定	恙 について田紀士					
6	TF未 (TF未 ()	_ ld	IIF来原広には門が・『F未療法の正	我に ノいく 生胜り・	<i>√</i>				
7	佐業廃法の社会	カレダ芸	// 类点: // / / / / / / / / / / / / / / / / /	ᆚᄯᄺᆉᄀᄱᇎ	た・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
8	・ 作業療法の対象	家と領現	作業療法の対象・領域、作業療法士が活躍する場所を理解する						
9	/ <u>/</u> *****	D1 D1 4F1	/c### 0 7 12 (~ ~ 1) TH	=^ + TIII 477 - + - 7					
10	作業療法の実	践過程	作業療法の流れ(プロセス)、理論を理解する						
11	作業療法の	歴史	作業療法が生まれた背景、国内外の作業療法の歴史を理解する						
12	世界の作業	療法	日本と諸外国における作業療法の	現状を理解する					
13	佐業療法のエ	B B 1	佐業療法の会計の日本側を知り	佐学療法とはどの	トふかァレね行ふ	のか、その柳亜を理解する			
14	作業療法の理	兄场①	作業療法の介入の具体例を知り、	作未療法とはとの。	よりなことを1]り	のか、そのベ安を珪解する			
15	作業療法のヨ	日坦②	佐業療法の入るの日仕間を加り	佐学懐汁 レロ ビホ	トネかァレセケニ	のか その柳亜を珊知士?			
16	TF未濴法のり	光场(4)	作業療法の介入の具体例を知り、	TF未 依	ょりはことを打り	<i>いか、てい</i> 帆安を理解する			
17	作業療法のエ	目提②	実際の作業療法場面を見学し、こ	れまでの講義内容 [;]	を踏まえて作業療	法とはどのようなことを行			
18	→ 作業療法の現場③ 		うのか、その概要を理解する						
19	佐学族汁のエ	目提介	作業療法見学を復習し、作業療法	レルジのトニナッフ	とを行うのか ころ	の概要を理解する			
20	作業療法の現場④ 20		F来原広兄子を復百し、TF表療広	こはこのよりなこ	こでリノのか、そ	Ⅵ−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−			
21	作業療法の現	見場⑤	実際の作業療法場面を見学し、こ うのか、その概要を理解する	れまでの講義内容 [:] 	を踏まえて作業療	法とはどのようなことを行			

22	作業療	療法の現場⑤		れまでの講義内容	Fを踏まえて作業療法とはどのようなことを行	
-			うのか、その概要を理解する			
23	作業療法 <i>σ</i>)職能団体と職業	 作業療法に関連する法規範、職能	団体 職業倫理に	ついて理解する	
24		倫理	THE STATE OF THE S	411 (· · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
25	— -T mb	W. I	The Alf I was a second of the			
26	言語聰!	覚士について	言語聴覚士とはどのような職種かま 	生解する		
27	計画立案					
28	グル・	ープワーク	作業療法士や作業療法についてグループワークを通して具体的な内容を理解する			
29	グル・	ープワーク	作業療法士や作業療法についてのプレゼンテーションを通して具体的な内容を理解し、各グループの表えも共生され			
30	作業	療法発表会	プの考えを共有する また質疑応答を通して本講義を振り	り返る		
:	教科書	作業療法	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると定期 試験を受験できない	
:	参考書		概論 第4版 (医学書院)療法概論 (中山書店)	留意事項等	できるだけ欠席せず,予習復習を怠らないこ と	
		レポート課題:1	0%		•	
反	 战績評価	発表内容・グループワーク: 40%				
		定期試験:50%				
	備考					

	[沢 ☑ 必修	□講義	☑ 演習 □	 実習		
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期		
	基礎作業療法学		石田 裕二 (実務経験教員)	2	1	後期		
	授業概要		5為を実際に行い,作業分析・動作 対介入法の一つとしての作業行為が			じる		
	到達目標	各種 <i>の</i> になる)作業行為を実際に行い,作業分析 5 作業行為が治療として活用でき		作業療法の効果を	推定できるよう		
		1	授業計	画				
1	オリエンテー	ション	1・巨視的・包括的な「作業」 治療効果とは何かを、作業療			らのか、その		
2	オリエンテー	ション	2 ・基礎作業療法学という学問	閉領域について理解でき	3			
3	遂行機能の	解釈①	各種作業に反映する身体機 する医学的知識を再確認し、					
4	遂行機能の	解釈②	きる	公区门10000日至97/10	July Condition (Apply 1997)			
5	レザークラ	フト①						
6	レザークラフト②		レザークラフトの作成計画, および身体的側面に対する治			精神心理的側面		
7	レザークラ	フト③	【作業行為の分析に関わる複	見点の例(各作業行為全	般に適応)】			
8	レザークラ	フト④		・身体的側面:姿勢、関節運動や筋出力の状況、「巧緻性」という着眼点 目と手の協調 など ・精神心理的側面:持続力や集中力などの精神耐性 認知、判断能力 高次脳機能との関連 集団行動の中の自己の存在、有能感など				
9	レザークラ	フト⑤						
10	レザークラ	フト⑥						
11	籐細工	1						
12	籐細工	2	籐細工の作成計画, 材料・追 体的側面に対する治療的効果		,	単的側面および身		
13	籐細工	3	【作業行為の分析に関わる複	見点の例(各作業行為全	般に適応)】			
14	籐細工	4	・身体的側面:姿勢、関節選 目と手の協調		「巧緻性」という着	計眼点		
15	籐細工⑤		・精神心理的側面:持続力や 高次脳機能と	>集中力などの精神耐性 ≤の関連 集団行動の中				
16	籐細工	6						
17	動作・活動	分析①	各種の作業行為 (Activity)を されているのかを論理的に解		な身体機能や精神	心理機能が賦活		
18	動作・活動	分析②	前過程で行ったレザークラフ とができる。	7トや籐細工を例に挙げ	、その治療効果に 	こついて論じるこ		

19	感覚	統合療法①			
20	感覚統合療法②		遊具による前庭刺激や触覚刺激なの治療に応用できることが理解で:		解学的発達を促し、発達障害領域
21	レクリ	エーション①			
22	レクリ	エーション②	予測できる身体的、精神的側面への治療効果を予測し、既知の種目あるいはオリジナ ルな種目を立案・計画して、レクリエーション種目を計画できる さらにレクリエー		
23	レクリ	エーション③	ションは人間生活における重要な QOLの向上に寄与することを理解		直接的・間接的にクライアントの
24	レクリ	エーション④			
25	テーブ	ルゲーム ①	施設や家庭内で実施できる簡単なテーブルゲームを中心に体験し,余暇活動の重要性		
26	テーブ	ルゲーム ②	や小集団のダイナミクスなども考慮したうえで、作業療法への適応を理解できる		
27	新 <i>作</i> 。	活動分析③④	表面筋電計を用いてactivity遂行中の筋活動を把握し治療効果を考慮できる。また、動作分析の各項目の内容や留意点を理解し,還元的要素にとらわれず全体の相互性にも		
28	多 刀下 .	/ロ動力 //I 少 で	注意を向けながら活動分析を行い、論理的に人間の生活行為を理解することができる		
29	【演習】作	業活動の処方①	作業行為(Activity)を心身の治療行為に応用・活用できるように企画し、 その詳細を症状や障害別に説明・立案できるようになる		
30	【演習】作	業活動の処方②	処方する作業行為に必要な器具、 リスクや危険防止方法なども説明		
	教科書		資料配布	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると単位が取得できない
:	参考書		ビュー社 作業療法学第3版 マスターテキスト 作業学	留意事項等	できるだけ欠席せず、講義に参加すること
成	Ⅰ 成績評価 Ⅰ		ウグループ発表などの成果物を採点 受講態度を総合判定し最終評価を行		<u></u>
	備考	・演習時には動る	きやすい服装で受講すること		

		択 ☑ 必修	□ 講義			
	科目名	教員氏名	単位	配当年次	 開講期	
	基礎作業療法学Ⅱ	石田 裕二 (実務経験教員)	2	2	前期	
	授業概要	D生活行為を作業と捉える理論的な おける作業療法の重要性について論		」 」の作業行為を分析	して、障害の治	
	到達目標	O作業行為を実際に行い,作業分析 Oいて推測できるようになる	・動作分析,治療的側	面の理論的解釈か	ら作業療法の効	
	I		<u> </u>			
1	総論・作業療法の理論	① 作業療法についての理論、治	療モデルなどを比較、	考察し、臨床にお	いて展開される	
2	総論・作業療法の理論	様々な治療行為の根拠が理解	できるようになる			
3	生体の力学的考察	① ・基本動作(寝返り、起き上 実習し様々な神経制御に裏打			ŕ	
4	生体の力学的考察	② ・「治療的意味をもった運動 れる「作業」の治療的意味を		解し,随意的な運動	と自発的に行わ	
5	陶芸①					
6	陶芸②		使用される用具の名称や機能を学習したうえで、粘土練りから完成に至る具体的な 作業工程を学び、制作工程のそれぞれの段階における身体機能や精神心理的機能や注 意点などの理解を深める。また、各疾患に処方される本アクティビティにどのような 治療的効果があるかを論じることができる			
7	陶芸③	意点などの理解を深める。ま				
8	陶芸④					
9	木工①					
10	木工②	ACTIVITY 2				
11	木工③	制作工程のそれぞれの段階に	■ 臨床場面で治療的に応用される木工作業において、用具の名称や機能を学習して、制作工程のそれぞれの段階における身体機能や精神心理的機能や注意点などの理解を - 深める。また、各疾患に処方される本アクティビティにどのような治療的効果があるかを論じることができる。また、用具によっては取り扱いに危険なものもあるので、			
12	木工④					
13	木工⑤					
14	木工⑥					
15	七宝焼き①					
16	七宝焼き②	ACTIVITY 3 七宝焼きの用具の名称や機能	を学習して、制作工程の	りそれぞれの段階にお	おける身体機能や	
17	七宝焼き③	精神心理的機能や注意点などの にどのような治療的効果がある			マクティビティ	
18	七宝焼き④					

19	ケッ	,ト手芸①				
20	ケッ	,ト手芸②	ACTIVITY 4 制作工程のそれぞれの段階における	る身体機能や精神ル	心理的機能や注意点などの理解を深め	
21	ケッ	,ト手芸③	る。また、各疾患に処方される本アク ことができる	フティビティにどの)ような治療的効果があるかを論じる	
22	ケッ	ルト手芸④				
23	織	物①				
24	織物②		ACTIVITY 5 織物の製作工程それぞれの段階にお	ACTIVITY 5 織物の製作工程それぞれの段階における身体機能や精神心理的機能や注意点などの理解を		
25	織	物③	深める。また、各疾患に処方される本アクティビティにどのような治療的効果があるかを論 じることができる			
26	織	物 ④				
27	タイル	レモザイク①				
28	タイル	レモザイク②	ACTIVITY 5 使用される用具の名称や機能を学習して、制作工程のそれぞれの段階における身体機能や			
29	タイル	レモザイク③	精神心理的機能や注意点などの理解を深める。また、各疾患に処方される本アクティビ ティにどのような治療的効果があるかを論じることができる			
30	タイル	レモザイク④				
i	教科書	講義	資料を事前に配信する	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると当該科目の単位は取得できない	
;			療法学「基礎作業学第3版」 ゴールドマスターテキスト 作業学第3	留意事項等	できるだけ欠席せず、講義に参加すること	
成績評価			なかで、レポート課題を出題する ポートの結果を総合して成績に反映	させる		

備考

・演習時には動きやすい服装で受講すること

	[沢 🗷] 必修	□ 講義	☑ 演習 □	実習
	科目名			教員氏名	単位	配当年次	開講期
作	作業療法評価学演習Ⅰ			西村 大地・佐藤 速太 (実務経験教員)	2	1	後期
	授業概要 では, 評価			果的な作業療法を実施するうえできわめ の意義や目的,その一連の進め方についる る形態計測法,関節可動域測定法,筋	いて学習する また	た, 作業療法におけ	る基本的検査・測
	到達目標			西における各種検査・測定手技(形態 施できるようになる	計測,関節可動域測	定,筋力測定法)	を学び,その基本
				授業計画			
1	オリエンテーシ 評価学棚		よび	本授業の概要,学習目標・内容, ? 解できる	スケジュール,学	習方法の説明,評	『価とは何かを理
2	一般的評価	事項		問診・観察・面接(すべての始まり 要か理解できる	り)を通して,「	見立て」にはどの	ような情報が必
3	形態計測	1		身長,体重,体格指数,四肢長,∫	周径の計測を演習	し,その正確な手	生法を習得し,測
4	形態計測 ②			定値の臨床的意味について理解で	きる		
5	関節可動域測	定概論	À Ħ	関節可動域測定の概要について学び	 び,方法と目的を	<u></u> 理解できる	
6	関節可動域総合	演習	1	肩甲帯・肩関節のROM測定を演習	し,手技を習得て	きる	
7	関節可動域総合	演習	2	前腕・手関節のROM測定を演習し	,手技を習得でき	: 3	
8	関節可動域総合	演習	3	股・膝関節のROM測定を演習し,	手技を習得できる)	
9	関節可動域総合	演習	4	足関節のROM測定を演習し,手技	を習得できる		
10	関節可動域総合	演習	5	頸部のROM測定を演習し,手技を	習得できる		
11	関節可動域総合	演習	6	胸腰部のROM測定を演習し,手技	を習得できる		
12	関節可動域総合	演習	7	手指のROM測定を演習し,手技を	習得できる		
13	関節可動域総合	演習	8	これまでのROM測定を復習し,他	 老に宝践でキス		
14	関節可動域総合	演習	9	C 1 0 G C V NOIWI	,gk大以、ССО		
15	関節可動域測定	実技試	験①	実技として十分な手技を習得してい		<u></u> を踊して判定する	
16	5 関節可動域測定実技試験②		験②	人以こして「刀は丁以だ日付ししり	· <i>↓ /</i> / , 大] X P·\ ii Y i	- ME O C TULE Y の	
17	徒手筋力検:	查概論		徒手筋力検査の概要について学び,	方法と目的を理	 解できる	
18	徒手筋力検査総	合演習	1	体幹・肩甲帯のMMT測定を演習し	 , 手技を習得でき	<u></u>	

19	徒手筋力梭	食査総合演習	2	肩関節のMMT測定を演習し,手技	を習得できる	
20	徒手筋力梭	食査総合演習	3	肩関節のMMT測定を演習し,手技	を習得できる	
21	徒手筋力梭	食査総合演習	4	 肘関節,前腕のMMT測定を演習し	, 手技を習得で	きる
22	徒手筋力検	全統合演習	(5)	手関節,手指のMMT測定を演習し	, 手技を習得で	きる
23	23 徒手筋力検査総合演習 ⑥ 股関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる					
24	徒手筋力梭	食査総合演習	7	股・膝関節のMMT測定を演習し,手技を習得できる		
25	徒手筋力梭	食査総合演習	8	足関節のMMT測定を演習し,手技	を習得できる	
26	徒手筋力検査総合演習 ⑨ これまでの徒手筋力検査を復習し、他者に実践できる					
27	徒手筋力梭	查総合演習	10	これまでの徒手筋力検査を復習し、他者に実践できる		
28	 徒手筋力検	食査総合演習	11)	これまでの促于別力快直を接自し、他名に天成できる		
29	徒手徒手筋	5力検査実技記 ①	式験	実技として十分な手技を習得しているか,実技試験を通して判定する		
30	徒手徒手筋	5力検査実技記 ②	式験	美衣として下がな子衣を百得してい 	いるが、美奴武嶽	で通し(刊たりる
	新・徒手筋力検査法 作業療法評価学 第 PT・OTのための測定 ROM測定 第3版 (生 第の測定	官評価シリーズ1	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない
:	参考書			かの解剖学的触診技術上肢 かの解剖学的触診技術体幹下肢	留意事項等	できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと
成	戈績評 価	中間OSCE(期末OSCE(期末試験(4	(30%	5)		
	備考					

	[選択	☑ 必修	□講義	☑ 演習 □	実習		
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期		
作	業療法評価学演習	3	西村 大地 石川 竜乃介 (実務経験教員)	2	2	前期		
	授業概要		や目的、その一連の進め方につ 議および演習を通して習得する。		業療法における基本	的検査・測定技術		
	到達目標	作業療法評	通価を実施するために、各種検査	法を理解し、実施すること	こができる。			
			授業計	画				
1	オリエンテー	ーション	本講義の概要と、学習方法に	こついて理解する				
2	バイタルサ	ナイン	バイタルサインの目的を説明	月し、測定を実施する				
3	反射検	本	表在反射、深部反射、病的质	こ針の日的を説明し 甘	- 木の手持を実施す	- z		
4	汉 别侠	且	农住区初、 本即区别、例如儿	文別の日刊を武明し、奉	学生が子びて 美心 9	<i>ئ</i>		
5	CT 24 14 -	- 4		+ -				
6	感覚検査		感覚検査の目的を説明し、基	を 本的手技を美施する				
7	AL 44-4-			+				
8	感覚検査	1 (2)	感覚検査の目的を説明し、基本的手技を実施する					
9	<u> </u>	^	t=m と力=m は 応中 の 亡 む 「		. ++ <i>+</i>			
10	協調性核	文 宜	失調や協調性障害の症状、目的を説明し、基本的手技を実施する					
11	筋緊張核	食査						
12	疼痛検	査	一肋繁張快査の日的を埋解し、	- 筋緊張検査の目的を理解し、基本的手技を実施する 				
13	0// ۴۴۴ ۹۵۵ T	۸ ۸	NY	甘士协工社士中华土?				
14	脳神経核	央笡	脳神経検査の目的を説明し、	奉 平的于坟を実施する				
15	 ↓+÷		五位に トナ芸(ボッロ 45 + =23	ᇚᅠᆥᆉᄴᅩᅶᅷᄼᇝᄽ	-+ 7			
16	- 面接		面接による評価の目的を説明	ガレ、 基 本的于技を実施	3 9 ව			
17	プレOSCE①		各検査を他者に説明し、同意	意を得たうえで実施し解	釈するための演習	を行う		
18	プレOSC	CE(2)	各検査を他者に説明し、同意	意を得たうえで実施し解	釈するための演習	『を行う		
19	プレ0SC	CE3	各検査を他者に説明し、同意	意を得たうえで実施し解	釈するための演習	ずを行う		

20	プレ	-OSCE4	各検査を他者に説明し、同意を得たうえで実施し解釈するための演習を行う			
21	中間OSCE		これまで学習した各検査のOSCEを実施する			
22	中	間OSCE	これまで学習した各検査のOSCEを	と実施する		
23	運動)	麻痺検査①	運動麻痺検査の目的を説明し、基	本的手技を実施す	- ₅	
24	運動)	麻痺検査②	運動麻痺検査の目的を説明し、基	本的手技を実施す	- ₅	
25	運動	麻痺検査③	運動麻痺検査の目的を説明し、基	本的手技を実施す	- ₅	
26	運動	麻痺検査④	運動麻痺検査の目的を説明し、基	運動麻痺検査の目的を説明し、基本的手技を実施する		
27	プレ	-OSCE⑤	各検査を他者に説明し、同意を得たうえで実施し解釈するための演習を行う			
28	プレ	-OSCE®	各検査を他者に説明し、同意を得たうえで実施し解釈するための演習を行う			
29	期	末OSCE	これまで学習した各検査のOSCEを実施する			
30	期	末OSCE	これまで学習した各検査のOSCEを実施する			
	教科書	作業療法評価学	第4版(医学書院)	履修条件	30回講義のため、7回以上欠席すると定期試験を受験できない	
:	参考書	神経診察クロース 第3版(メジカル	ズアップ:正しい病巣診断のコツ ゼュー社)	留意事項等	できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと	
月	戈績評 価	OSCE: 60% 期末試験: 40%				
	備考		実技を行うことが多いため、各自	動きやすい服装で	で参加すること。	

			3 必修	□ 講義	☑ 演習 □	実習	
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期	
作	業療法評価学演習]	佐藤速太・西村大地 (実務経験教員)	2	2	後期	
	授業概要		や程度を精査し具体的な問題点の 技能の向上および患者とのコミ			れまで修得した知	
	到達目標	これまで学! る	内で修得してきた知識ならびに技	術の総まとめを行い,臨	地実習を円滑に実	施できるようにな	
			授業計画	<u> </u>			
2	上肢機能検査①		基本的な上肢機能検査であ	るSTEF・BBTについて る。	てその概要を学び付	也者に実践でき	
3	上肢機能植	全查②	脳血管疾患の上肢機能検査で ボードについ	であるMFT、巧緻動作だいてその概要を学び他も		パーデューペグ	
5	上肢機能検査③		新しい上肢機能検査であるAF	査であるARATと上肢機能の質を評価するMAL・JASMIDの概要を学 び他者に実践できる。			
7	神経心理学的	的検査①	高次脳機能障害の検査である	HDS-R·MMSE·TM	T-Jの概要を学び作	也者に実践できる	
9	神経心理学的	7検査②	高次脳機能障害の検査である	能障害の検査である三宅式記銘力検査・S-PA・ベントン色覚記銘検査の概 を学び他者に実践できる			
11 12	神経心理学的	7検査③	高次脳機能障害の検査である クス検	KOHS立方体組み合わ 査の概要を学び他者に		ブン色彩マトリッ	
13	- 神経心理学的検査④		高次脳機能障害の検査で	であるBIT・FAB検査の	概要を学び他者に	実践できる	
13	神経心理学的検査⑤ 作業に焦点を当てた介入を可視			を可視化するCOPM・(CAODの概要を学	び実践できる	
15 16	神経心理学的	7検査⑤	高次脳機能障害の検	き査であるBADSの概要	を学び他者に実践	影できる	

17	抽終心	理学的検査⑥	高次脳機能障害の検査である日本	版リバーミード行	丁動記憶検査・慶應版ウィスコンシ			
18	11年小主/い	生于171天直①	ンカード分類検	査の概要を学び他	也者に実践できる			
19	神経心	理学的検査(7)	 	/MS-R·WAIS-IV	/の概要を学び他者に実践できる			
20			11.7 (1.1 19.10)					
21	神経心理学的検査⑧		 高次脳機能障害の検査であるW	'MS-R·WAIS-IV	/の概要を学び他者に実践できる			
22	77,120							
23	総合	演習 一①		模擬症例と作業療法士を学生が演じ,疾患の理解と評価項目の立案を行うことができ				
24	総合	演習 一②	る(整形外科	斗疾患症例・脳血 	管疾患症例)			
25	総合	演習 一③	模擬症例と作業療法士を学生が演じ、評価を実践することができる(整形疾患症例)					
26	総合	演習 一④						
27	総合	演習 一⑤	模擬症例と作業療法士を学生が演じ、評価を実践することができる(脳血管疾患)					
28	総合	演習 一⑥						
1	教科書	・作業療法評価	学(標準作業療法学 専門分野)	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない			
-	参考書		授業内で適宜提示	留意事項等	実技練習は適宜行うこと			
成	成績評価 ・レポート,口頭		頁試問,演習課題並びに取り組み状	況,出席を総合的	りに判断し成績に反映する .			
	備考							

		□選	択 ☑	7 必修		☑ 講義	□演習□	実習		
	科目名	7		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
神糸	圣障害作業療	· 注治療学		西村 大地 (実務経験教員)		1	2	後期		
	授業概要			ーションの中核的対象となる	神経	章害について深く	学び、治療技術を	を臨床に		
		及映	でさる	よう実践的な内容を学ぶ						
	到達目標	様々	な神経	症候を医学的に解釈・統合し	.具体[的な治療に反映で	ぎきるようになる			
	1			授業計画	画					
1	- ,	ンテーショ 療学総論	ン	脳卒中における作業療法治療	・介	入方法の概要を覚	之, 3、			
2	脳血管障	害の作業療	法①	脳卒中における評価、治療の	推奨	や予後予測を学ぶ	5.			
3	脳血管障	害の作業療	法②	急性期における作業療法を学ぶ						
4	脳血管障	害の作業療	法③	回復期における作業療法を学	<u> </u>					
5	脳血管障	害の作業療	法④	FMAについて学ぶ						
6	脳血管障	害の作業療	法⑤	FMAについて実践する						
7	7 脳血管障害の作業療法値			生活期における作業療法を学	<u>±</u> _3;					
8	脳血管障	害の作業療	法⑦	脳卒中急性期におけるリスク	'管理	の概略を学ぶ				
9	焽	頁部外傷		頭部外傷の作業療法の治療を	学ぶ					
10		認知症		認知症の分類、認知症を呈する疾患について基本的な理解を深める						
11	神	経筋疾患		ギランバレー、多発性硬化症、重症筋無力症の作業療法を学ぶ						
12	神経	変性疾患①		パーキンソン病の作業療法を	ご学ぶ					
13	神経	変性疾患②		个髓小脳変性症、筋委縮側索 	硬化	症の作業療法を覚	≠ .ડે`			
14	神経障害化	作業療法の実	ミ際①							
15	神経障害化	作業療法の実	ミ際②	評価の要約、目標、治療計画	可、プ	ログラムなど一連	≣のプロセスを学↓	<i>\$</i> ;		
	教科書 身体機能作			! 業療法学 第4版(医学書院)		履修条件	15回の講義なので と定期試験を受験	, 3回以上欠席する できない		
	参考書 参考書			識から最新リハビリテーション a 医歯薬出版株式会社)	きで	留意事項等	できるだけ欠席せ らないこと	ず,予習復習を怠		
J5,	成績評価 期末試験100%									
	備考									

				₹ 🔽	1 必修		□講義	☑ 演習 □	 実習		
	科目名				教員氏名		単位	配当年次	開講期		
神経	障害作業療法	治療学	海習		佐藤 速太 (実務経験教員)		1	2	後期		
	授業概要				業療法治療学で学習する知識 価、治療の技能を身に着ける				と について論じ,		
	到達目標			神経	障害患者への機能的作業療法				色することができ		
					授業計画						
1	基本	動作	1		片麻痺患者におけるポジショニング、寝返りの分析と介入方法を理解できる						
2	基本	動作	2		片麻痺患者における起き上がり、座位の分析と介入方法を理解できる。						
3	基本	基本動作 ③			片麻痺患者における立ち上がり、移乗の分析と介入方法を理解できる。						
4	機能的何	機能的作業療法 ①			中枢神経性麻痺に対	する評	平価を理解し、ア	プローチ方法を理	解できる		
5	機能的作業療法②)							
6	機能的何	機能的作業療法 ③			中枢神経性麻痺に対するアプローチ(徒手運動、机上課題)が理解できるように						
7	7 機能的作業療法 ④)							
8	運動原	麻痺の	評価		FMAとBRSとの関連性を理解	解し、	運動麻痺の程度を	を正しく評価でき	3.		
9	運動麻痺に	対する	治療技	術①	運動麻痺へのアプローチに使用される技術、器具について理解できる。						
10	運動麻痺に	対する	治療技	術②	電機刺激療法について理解し、他者へ実践できる。						
11	感覚障害に	:対す [;]	る治療技	支術	感覚障害に対するアプローチについて理解し、介入計画を立案できる。						
12	ADL障害に	対する	治療技	0	NDI \$4./\rangle (1-1) = 4.7\ 1-4.	-	7 °	マTTT427 1 人 ユ = 1	ホナ 土安 マ キ フ		
13	ADL障害に	対する	治療技		ADL動作(セルフケア)に対	りるノ	アノローナについ	(理解し、介入計	一世を立条でさる。		
14	400	. ^ \-	22				Vocal Table	1# kz 46 , _ e5 n4	- + -		
15	於	合演	i i		設定した症例につい	,\``(`,	冶漿計画を立系し	ン、	ぐさる。		
:	教科書				検討中		履修条件	15回の講義なのでと定期試験を受験	, 3回以上欠席する できない		
:	参考書				ーシリーズ理学療法テキスト 経障害理学療法学	•	留意事項等	できるだけ欠席せ らないこと	ず,予習復習を怠		
Ы	成績評価				なかで、適宜レポート課題を ≤期末試験を実施し、総合的						
	備考										

			選択 ☑	② 必修		☑ 講義	□演習□	実習			
	科目名	,		教員氏名		単位	配当年次	開講期			
内音	『障害作業療	表治療学	Ž	石田 裕二 (実務経験教員)		1	2	後期			
	授業概要			宅のクライエントによくみら ように実践的かつ臨床的な内			[深く学び,治療技	技術を臨床に			
	到達目標	様	々な内科	的問題を医学的に解釈・統合	よし具体	本的な治療に反明	やできるようになる	3			
				授業計画							
1	オリエ	ンテーシ	ョン	作業療法士が深くかかわる内部障害 (内科系疾患) と、リハビリテーションの目的に ついて理解できる							
2	バイタルサ	トインとは)部障害	バイタルサインについて、呼吸・脈拍・血圧・聴診法の意義と方法を理解できる							
3	喀痰と吸引			喀痰と吸引の臨床的意義と方	方法を理	里解できる					
4	褥瘡	と体位変	換	褥瘡の処置と関わりについて	て理解で	できる					
5	経管栄養	を及び感染	 於対策	点滴、胃ろう、経鼻栄養、清 いて理解できる	青潔区均	域(滅菌消毒ガウ	ウンテクニック)、	感染予防につ			
6	糖	尿病 ①		糖尿病(高血糖症)の病理や	ウ内科的	 的治療について理	里解できる				
7	7 糖尿病 ②			糖尿病に対する運動指導,生活指導,作業療法全般について理解できる							
8	ı	腎疾患		慢性腎不全の病態,透析患者	当への [アプローチについ	いて理解できる				
9	:	がん		緩和ケアを含めたがんへの対応,QOLをふまえた介入法について理解できる							
10	呼吸	器疾患	1	呼吸不全の循環器への影響,酸塩基平衡の生活行為に対する影響について説明できる							
11	呼吸	器疾患	2	慢性呼吸器疾患に対するリハビリテーションについて説明できる							
12	循環	器疾患	1	虚血性心疾患の特徴を理解し説明できる							
13	循環	器疾患	②	多くの臨床情報をもとに全身	身状態(のアセスメントで	できるようになる				
14	高齢者の運	─ ─ ■動機能障	章害 ①	長期臥床や廃用の影響を評価	田し治郷	<u></u> - 療プログラムを立	 Z案できる				
15	高齢者の運	重動機能障	章害 ②	フレイルやサルコペニアにつ	ついて2	それらの概念を理	里解できる				
-	教科書		なるほ	どなっとく内科学改訂2版 南山堂		履修条件	15回の講義なのですると定期試験を				
;	参考書 必			必要に応じて提示する 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習 を怠らないこと				せず,予習復習			
向	成績評価			なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる							
	備考										

			□ 選択 Ⅰ	☑ 必修		☑ 講義	□演習□	実習			
	科目名	1		教員氏名	I	単位	配当年次	開講期			
老	年期作業療法	法治援	影学	石川 竜乃介 (実務経験教員)		1	2	後期			
	授業概要		加齢に伴っように講家	う心身機能の変化の特徴,疾患 奏を行う	まや障!	害について理解し	, 全人間的な介力	法を考えられる			
	到達目標			い身機能の特徴,生活習慣や環 作業療法や在宅リハについて表		_	直結する役割行動	かなどを理解し,			
				授業計画							
1		総論		老年期の心身機能の変化につ	ついて	,その概略が理解	星できる				
2	高齢者の	の社会	会的役割	人生経験を積み上げた高齢者の役割の重要性について理解できる							
3	社会活	動の	重要性	社会交流の場を保証し、QOLの維持向上に向けた作業療法士の取り組みについて 理解できる							
4	高齢者の	生活	について	稼働年齢をこえた高齢者の生 心身の健康について理解でき		動について,様々	なパターンを類対	隹し,高齢者の			
5	高齢	者の	心理	高齢者の心理について理解で	できる						
6	高齢者の心肺機能			高齢者の心肺機能や背景にあ	高齢者の心肺機能や背景にある内部疾患などについて理解できる						
7	高齢者の	自律	神経機能	若年者と比較した高齢者の自	若年者と比較した高齢者の自律神経機能について理解できる						
8	高齢者の	筋力	について	高齢者の筋力について, サル 理解できる	レコペ	ニアを例に挙げて	「低運動による障 <i>だ</i>	がいの本質を			
9	高齢者	が栄	養状態	高齢者の栄養状態について学習し、在宅リハにおける具体的なアセスメントや 指導内容について理解できる							
10	高齢	渚の·	代謝	生理学的視点から高齢者の代謝機能の特徴について理解できる							
11	高齢者に	対する ①	6作業療法	虚弱高齢者に対する作業療法について,具体例を通して理解できる							
12	高齢者に	対する ②	6作業療法	高齢者のADLについて, 具体	本例を	通して理解できる					
13	高齢者に	対する ③	作業療法	認知症の病態と作業療法の分	个人に	ついて理解できる)				
14	高齢者に	対する ④	5作業療法	高齢者の「生きがい・楽しみ	タ」に	ついて, その本質	重を理解できる				
15	高齢者に	対する ⑤	6作業療法	高齢者の運転に関する種々の	つ問題	 について,作業療	 逐法の視点から考察	 察できる			
;	教科書高齢期作業療			法学 標準作業療法学 (医学書		履修条件	15回の講義なので、と定期試験を受験	, 4回以上欠席する できない			
;	参考書			検討中		留意事項等	できるだけ欠席せ [*] らないこと	ず,予習復習を怠			
月	成績評価			なかで、適宜小テストを実施する 5果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる							
	備考										

		i	選択 ☑	② 必修		☑ 講義	□ 演習 □	実習		
	科目名	1		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	日常生活活	動学		石川 竜乃介 (実務経験教員)		1	2	前期		
	授業概要	で対	象者の個	ションの目標である日常生活活動 (別性を考慮した創造的な練習や支援 す方法を学ぶ。						
	到達目標			病態と生じる障害像の基礎的な知識を十分に学び、生活行為を構成する諸要素について る。対象者の個別性を考慮し主体的に生活を支援する方法を学習する。						
				授業計	画					
1	ADLσ	概念と範	囲	ADLの概念と範囲、生活機能	じから .	見たADLの位置っ	がけついて理解でき	きる		
2	ADL評価			 ADL評価の種類と評価ポイン 	ノトに	ついて理解できる	ó			
3	ADLと基本動作			ADL拡大に必要な基本動作の)基礎(的知識とリハビリ	リテーション的視点	点を理解できる		
4	脊髄損	傷のADL	1	脊髄損傷の損傷レベル、残存 連動したADL(起居動作方法				ごリテーションに		
5	脊髄損	傷のADL	2	残存機能に応じたADLと生活	5環境(について理解でき	きる			
6	脊髄損	傷のADL	3	残存機能における活動状況に応じたIADL拡大の方法を理解できる						
7	脳卒中片麻痺のADL 1 【中間テスト】			脳卒中の病態及び障害と片麻痺のADL評価残存機能における活動状況に応じた医療福祉デバイスを理解できる						
8	脳卒中片	-麻痺のA[DL 2	高次脳機能障害によるADLへおよび支援方法の概要を理解			DLの予後予測を	検討し、治療計画		
9	関節リ	ウマチのA	,DL	関節リウマチの病態と必要な	よ日常2	生活動作方法およ	てび環境を理解でる	きる		
10	運動器	Ŗ疾患のΑ[DL	人工関節や関節疾患の慢性疼痛を持つ人々のADLについて理解できる						
11	上肢運動	お疾患の	ADL	上腕・前腕・手・手指に発症する運動器疾患の病態とADL支援方法について理解できる						
12	パーキン	ソン病の	ADL	パーキンソン病を中心とした神経難病の病態と予後を理解し、身体活動状況に応じた ADLについて理解できる						
13	認知	i症のADL		認知症の種類と特徴を理解し	, AD)Lへの影響や適り	刃な関わり方を理解	解できる		
14	内部	疾患のADI	L	心疾患・呼吸器疾患によるA	DL^	の影響と支援方法	よについて理解で ā	きる		
15		び在宅にま DL指導	おける	対象領域における対象者の原 解できる	居住地	及び目標とする扱	D点を考慮したAD	L指導について理		
į	教科書	В		ニカル作業療法シリーズ 活動の作業療法 中央法規		履修条件	全講義の1/5を欠 得できない	席すると単位を取		
:	参考書			ポテスト実施。授業で行った部分の理解・知識の補完を行うこと (範囲は授業内で提示)						
向	成績評価			対象とする(中間2:期末8)。その より単位修得となる	- の他、打	受業態度および提出	出物も成績の対象と	する。		
	備考 備考 積極的な質問を			開解度アンケート、授業前の小テスト等を実施する。 ・歓迎する。						

	□ 選択 ☑ 必修 □ 講義 ☑ 演習 □ 実習									
	科目名	1		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
E	常生活活動	为学演 [?]		石川 竜乃介 (実務経験教員)		1	2	後期		
	授業概要			管害の動作に対して分析的に観 「できるよう講義演習を行う	察し,	表出することが	でき,治療的に系	系統立てた考えを		
	到達目標		各疾患や障 持つことか	宣害の動作に対して分析的に観 できる	察し,	表出することが	でき,治療的に系	系統立てた考えを		
				授業計	由					
1	動作分	が析と	/‡ ①	動作分析について理解し、分	分析的	な視点を持つこと	こができる			
2	動作分	が析と	は ②	動作分析について理解し,分析的な視点を持つことができる						
3	姿勢	いたつり	いて	姿勢について理解し、分析的な視点を持つことができる						
4	座位	īにつ	いて	座位について理解し,分析的	りな視	点を持つことがで	できる			
5	立位	īにつ	いて	立位について理解し、分析的	りな視	点を持つことがで	できる			
6	寝返り			り 寝返りについて理解し、分析的な視点を持つことができる						
7	起き上がり			起き上がりについて理解し、分析的な視点を持つことができる						
8	立ち上か	*り)	座位から	座位からの立ち上がりについ	ヽて理	解し,分析的な初	見点を持つことが	できる		
9	立ち上	がり	床から	床からの立ち上がりについて	て理解	し,分析的な視点	点を持つことがで	きる		
10	步	≒行 (1)	歩行について理解し、分析的な視点を持つことができる						
11	步	≒行 (2	歩行について理解し、分析的な視点を持つことができる						
12	ADI	_動作	1	ADL動作について理解し、分	分析的	な視点を持つこと	こができる			
13	ADI	_動作	2	ADL動作について理解し、分	分析的	な視点を持つこと	こができる			
14	症例	検討	1)	症例検討で動作分析をはじぬ	ちとし	た評価を行い治療	寮計画ができる			
15	症例	検討	2	症例検討で動作分析をはじぬ	ちとし	た評価を行い治療	寮計画ができる			
100	教科書 (中央法規)			上 法シリーズ 日常生活活動の作動 治療アプローチ(メディカルビュ・		履修条件	15回の講義なのでると定期試験を受	, 4回以上欠席す 験できない		
ź	参考書			検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習 らないこと				ず,予習復習を怠		
成	成績評価			なかで、適宜小テストを実施 果と定期テストの結果を総合		績に反映させる				
	備考									

			選択 ☑			 ☑ 講義		 実習		
	科目名	1		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	高次脳機能	障害学		西村 大地 (実務経験教員)		1	2	前期		
	授業概要	脳	損傷に起	尼因する高次脳機能障害の病態	《や症物	犬、評価方法、リ	ハビリテーション	⁄について学ぶ		
	到達目標		機能につ きる	いて理解し、高次脳機能障害	₹の病剤	態や症状、評価、	リハビリテーショ	ンについて説明		
				授業計画						
1	高次原	脳機能総	論	授業の構成および成績評価に関するオリエンテーション、高次脳機能障害とはなにか 学ぶ						
2	大脳の機	能局在と	と障害	大脳の機能局在や各部位の障害、脳動脈の支配領域について学ぶ						
3	 脳画像と高次脳機能障害 			脳に関連する画像(CT・MF	RI) の	見方や脳部位の同	司定方法について	ご 学		
4	高次脳機能障害の評価			高次脳機能障害の評価の原則	川やプロ	コセス、阻害要因	を学ぶ			
5	半側空間無視			半側空間無視の症状特性、神	申経心:	 理学的検査、リバ		こついて学ぶ		
6	注	意障害		全般性注意障害の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ						
7	āc	21億障害		記憶障害の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ						
8	視覚モダリ 失認と	ティーに関連症状		視覚モダリティーにおける失 リハビリテーションについて		関連症状の特性、	神経心理学的検査	Ĭ.		
9	視覚モダリ 失認と	ティーに関連症状		視覚モダリティーにおける失認と関連症状の特性、神経心理学的検査、 リハビリテーションについて学ぶ						
10	失認・	失読・舞	夫書	失認・失読・失書の症状特性、神経心理学的検査、 リハビリテーションについて学ぶ						
11		失行		失行の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ						
12	遂行	「機能障害 「機能障害」 「機能できる。」	主	遂行機能障害の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ						
13	社会的	的行動障	 害	社会的行動障害の症状特性、	神経	 心理学的検査、リ	 ハビリテーション	 /について学ぶ		
14	Ē	認知症		認知症の症状特性、神経心理	里学的相	ー 倹査、リハビリテ	ーションについて -	て学ぶ		
15	高次脳機能 法律	能障害に や社会制		高次脳機能障害における法律 ついて学ぶ	≢や社:	会制度について理	上解し、必要な支抗 関解し、必要な支抗	受やアプローチに		
:	教科書			・ 脳機能障害学 第3版 医歯薬出版株式会社)		履修条件	15回の講義なので、			
	参考書高次脳機能		次脳機能	障害作業療法学(医学書院)		留意事項等	できるだけ欠席せ ⁻ らないこと	ず,予習復習を怠		
万 人	成績評価 中間試験:20% 期末試験:80%					.				
	備考									

		□ 選	択 ☑ 必修		□講義	✓ 演習 □	実習			
	科目名	1	教員氏名		単位	配当年次	開講期			
コミュ	- ニケーション	ン方法論演習	平塚 健太 (実務経験教員)		1	1	後期			
	授業概要	例から		ュニケーションの方法は多様化している それぞれのコミュニケーション方法についての使用 らに社会人としての伝達方法であるプレゼン,レポート,レジュメ作成までを理解し,実施で んでほしい(手紙の書き方も含める)						
	到達目標)コミュニケーション方法についての使用例から,さらに社会人としての伝達方法であ イ,レポート,レジュメ作成までを理解し,実施できる						
			授業計	画						
1	コミュニ	ケーション。	とは コミュニケーションの定義と	: 必要′	性を理解できる					
2	コミュニク	「ーションの	種類 様々なコミュニケーション方	5法に	ついて提示し,適	用と適用外につい	って述べる			
3	傾耳	聴と質問	話の聞き方および質問の仕方	うを理論	解できる					
4	会話のルー	-ルと質問の)仕方 会話のルールやマナー・良質	質な質	問を理解し、実践	できる				
5		ュニケーシ 他者理解	・ョン 様々な価値観を受け入れ、値	面値観	を共有することが	できる				
6	レポー	-トの書き方	レポートの書き方について理	レポートの書き方について理解し,実践できる						
7		の作り方と ケーション	相手に伝わりやすい資料の作	下り方	・プレゼンテーシ	ョンを理解できる	,			
8		の作り方と ケーション	相手に伝わりやすい資料の作	下り方	・プレゼンテーシ	ョンを理解し、実	践できる			
	教科書		資料を配布する		履修条件	PCを使用する 15回の講義なのすると定期試験を				
:	参考書		適宜	適宜 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を						
月	対績評価		i義のなかで、適宜小テストを実施 の結果と定期テストの結果を総合し		績に反映させる					
	備考									

		□選	択] 必修		☑ 講	養	□演習□	実習	
	科目名	1		教員氏名		単位		配当年次	開講期	
II A F	ごリテーショ	ン筒田ヴェ		佐藤・速太		1		2	前期	
9/16	_ 7 7 — 2 =	ノ官垤子「		(実務経験教員)		1		2	刊力	
	授業概要	業務を	を実施	するにあたり, リスクマネジ	メント	・や組織運営	の観	点からの個人の在	り方までメタ認	
	汉未恢安	知を高	高めて	行動できるよう講義を行う						
	到達目標	業務を	を実施	するにあたり, リスクマネジ	メント	へ や組織運営	の観	点から,職場にお	ける個人の在り	
	刀是百队	方に	ついて	一考えることができる						
	T			授業計画						
1	作業療法	:管理学 総	論	作業療法管理学の概念や背景について理解できる						
2	医療機関の分類と組織			医療機関の分類や組織構成・	役割(について理解	でき	る		
3	医療保険制度			作業療法業務に必要な医療係	R) (大)	度について理	解で	きる		
4	介護保険制度と社会保障			作業療法業務に必要な介護保険制度と社会保障制度について理解できる						
5	介護予	防の取り組み	み	地域の介護予防対策をセラヒ	ごスト	の視点から考	え、	述べることができ	· る	
6	診療・介	`護報酬制度	(1)	リハビリテーション分野における収益構造を理解できる						
7	診療・介	`護報酬制度	2	リハビリテーション分野における収益構造を理解できる						
8		組織		組織やチームについて理解で	ぎきる					
:	教科書	リハビリ	テーシ	ョン管理・運営実践ガイドブ	゚ック	履修条件	=	8回の講義なので, と定期試験を受験		
;	参考書			適宜提示		留意事項	等	できるだけ欠席せ らないこと	ず,予習復習を怠	
雨	成績評価			かで、適宜小テストを実施す 果と定期テストの結果を総合し		績に反映させ	-る			
	備考									

		② 必修		V	講義	□演習□] 実習				
	科目名			教員氏名	•	単	位	配当年次	開講期		
Шл	ビリテーショ	· 、		西村 大地			İ	2	※ ##		
97	ヒリテーショ	コノ官理子		(実務経験教員)		-	L	2	後期		
	授業概要	管理	・マネ	ジメントについて職場から症	例につ	ついて範囲	囲を広げ	て考えることがで	できよう講義を行		
	1文米 机女	う									
	到達目標	作業	療法士	の臨床現場における管理・マ	'ネーシ	ジメント,	リスク	管理について,礼	見野を広げて考え		
	23,221 3,0	るこ	とがで								
	1			授業計画							
1		ンテーショ		目標の立て方、時間の利用方法、自己研鑽の必要性、他職種を理解する姿勢、所属外							
	セルフ	マネジメン	' 	の繋がり、理論についての重要性を理解することができる。							
2	マネシ	ジメントとり	ţ	マネジメントについて、マネ	ヾジメン	ントの重	要性につ	いて理解すること	こができる。		
3	マネジメントに役立つ メソッド〜コーチング〜			コーチングについて理解することができる							
4	マネジメントに役立つ メソッド~CCS~			CCSについて理解することができる							
5	チーム	マネジメン	· -	リーダーシップ、環境設定、チームの活用、交渉スキル、クレームへの				•	ファレンスや計画書		
6	管	理・運営		管理者とはなにか、必要な能力、収益管理、施設管理、リスク管理、労務管理、労働衛生管理、書類管理、教育システム、会計管理、人材マネジメントについてを理解することができる							
7	診療ガイト	ドラインと? 任	去的責	診療ガイドラインと法的責任	≟につ(いて理解	すること	ができる			
8		まとめ		各回の授業について振り返り	り、内容	容をまと	めること	ができる			
:	教科書	特に指定し	ない (適宜資料を配布する)		履修	条件	8回の講義なのでると定期試験を受	。 ・,3回以上欠席す ・験できない		
	参考書(メジカルビュー社)		ュー社)	リスク管理ハンドブック 第4版 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を らないこと				一ず,予習復習を怠			
	小ラ		ルテスト(35%)								
瓦	戈績評価	グループワーク(15%)									
		レポート課題(50%)									
	備考										

		□ 選				□ 講義	☑ 演習 □	 実習			
	科目名	l		教員氏名		単位	配当年次	開講期			
,	作業療法学網	公急」		石田裕二 千葉馨 西村大地	1	1	3	前期			
	未像/広子	がいる用 I	佐藤	速太 石川竜乃介(実務経験教	(員	1	3	別知			
	授業概要	臨床	実習前	jの演習として,心構えや知識	技術の	の補完をする					
	到達目標	実習	の心構	晴えを自覚し,作業療法士としての基礎的な臨床技能を確立する							
				授業計画							
1	作業	療法総論		既習の知識を統合し,作業療法の目的,対象,評価・治療の概要を確立できる							
2	面接・導入			医師の処方から作業療法導力 きる	人に至	るまでの流れと作	F業療法士の動きに	こついて理解で			
3	トップダウンアプローチ ①			いわゆるトップダウンアプロ ら理解できる	1ーチ(の考え方,基盤と	なる理論について	て,具体的な例か			
4	トップダウンアプローチ			トップダウンアプローチにお	おける記	評価から導き出さ	れた情報を,作業	美療法プログラム			
4		2		の立案に応用できるようにな							
5	ボトムア	ップアプロ ①	ーチ	いわゆるボトムアップアプロ ら理解できる	コーチ	の考え方,基盤と	なる理論について	て,具体的な例か			
6	ボトムア、	ップアプロ	ーチ	ボトムアップアプローチにおける評価から導き出された情報を、作業療法プログラム							
		2)		の立案に応用できるようになる クライアントの医学的情報と生活環境の情報(職業, 趣味, 生活パターンなど)を							
7	医学モデルと生活モデル			クライアントの医学的情報で もとに,作業療法プログラム				メークなと)を			
8	AD	LとIADL		具体的な動作分析・活動分析 きる	斤を演	習し,臨床現場に	こおけるADLへの	考え方を統合で			
9	高次朋	凶機能障害		既習の高次脳機能障害の評価	面と治:	療手技について復	夏習し、臨床能力を	を高める			
10	身体障害領	領域の作業	療法	身体障害領域の作業療法について総括し、具体的に評価・治療ができる							
11	発達障害領	領域の作業	療法	発達障害領域の作業療法について総括し、具体的に評価・治療ができる							
12	精神障害領	領域の作業	療法	精神障害領域の作業療法について総括し,具体的に評価・治療ができる							
13	老年期障	害の作業療	療法	老年期障害(虚弱, サルコ〜 に評価・治療ができる	ペニア,	, 認知症など) <i>の</i>)作業療法につい	て総括し,具体的			
14	総	括 ①		診療記録の作成の方法,リバ 演習の中で作業療法士として	•			さなど, 実践的な			
15	総	括 ②		既習の学習内容を総括し、名				を深める			
<u> </u>	教科書 既存			】 D教科書を適宜使用する		履修条件	15回の講義なので と定期試験を受験	, 4回以上欠席する できない			
1	参考書			検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと							
成	成績評価)なかで、適宜小テストを実施する 5果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる							
	備考										

		選択			☑講義	□ 演習 □	実習	
	科目名		教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	作業療法学総論		石田裕二 千葉馨 西村大地	葉馨 西村大地 2 3				
	未像太子秘調	佐藤	速太 石川竜乃介(実務経験教	(員)	۷	3	後期	
	授業概要	3年間の集	大成として学べるよう講義を原	展開する	3			
	到達目標	治療技術に	こ直接活かせるような基礎・臨	床医学	の知識,作業療	法専門分野の知識	はを再学習し, 臨	
	到在口怀	床能力を高	高め, その成果を国家試験対策	に反映	?させることがで	きる		
			授業計	画				
1	基礎・臨床医学		骨の発生学,微細構造,形状	六, 骨榜	幾能,骨疾患につ	いて理解できる		
2	基礎・医学 骨格系の構造と		関節の形状とその動き、運動	粉疾患	景について理解で	きる		
3	基礎・臨床医 筋の構造と機能		筋の種類,収縮のメカニズム	、, エネ	ルギー代謝・筋	疾患などを理解で	できる	
4	基礎・臨床医 筋の構造と機能		筋の支配神経,神経筋接合部	3の機能	た、関節運動と筋	i収縮の関係などを	と理解できる	
5	を表現します。 基礎・臨床医学領域 神経系 ①		中枢神経の構造と機能,中枢神経障害による病態について理解できる					
6	基礎・臨床医学領域 神経系 ②		末梢神経の構造と機能、末梢神経障害による病態について理解できる					
7	基礎・臨床医学領域 7 神経系 ③		脊髄疾患,脊髄損傷の病態,自律神経の構造と機能について理解できる					
8	基礎・臨床医 内臓系 ① 呼	学領域 吸循環器	呼吸器・循環器構造と機能. それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる					
9	基礎・医学 内臓系 ②		消化器に分類される臓器の構造と機能、代表的な疾患について理解できる					
10	基礎医学领内臓系 ③		腎臓・膀胱の構造と機能、代表的な疾患とその症状について理解できる					
11	基礎・臨床医 内分泌剤		内分泌器官の構造と機能,代	えものな	:疾患とその症状	について理解でき	きる	
12	基礎・臨床医 先天性疾		様々な遺伝病,周産期異常など,代表的な先天性疾患の症状について理解できる					
13	基礎・臨床医 精神医学		精神障害領域の疾患と治療に	こついて	て理解できる			
14	基礎・臨床医 精神医学	-	てんかん,認知症について理	解でき	: S			
15	基礎・臨床医学領域 小児科学領域		発達障害も含め小児科領域の	疾患に	こついて理解でき	3		
16	基礎・臨床医学領域 臨床心理学		防衛機制,心理療法,各種検査について理解できる					
17	基礎・臨床医 リハビリテーシ		障害分類(ICF),障害受容	, 그ニ	バーサルデザイン	ンなどについて理	解できる	

18		臨床医学領域 度関連	理学療法士・作業療法士法,介護に	呆険などの法制・	制度を理解できる	
19		臨床医学領域 3.衆衛生	感染予防,医療制度など,臨床現場に即した知識を習得する			
20		臨床医学領域 f学 ①	脳の画像診断学について理解できる	3		
21	基礎・ 診断	臨床医学領域 f学 ②	胸部,腹部,四肢の画像診断学にで	ついて理解できる)	
22	基礎・ 診断	臨床医学領域 f学 ③	異常心電図の判読,心疾患の診断に	こついて理解する	,	
23		臨床医学領域 床薬理学	様々な症状に適応する薬剤についっ	て理解できる		
24		臨床医学領域 化学検査	生化学的検査による正常基準と異常	常所見を惹起する	疾患について理解できる	
25		臨床医学領域 PE・PA	フィジカルアセスメントに関連する各事項について理解できる			
26	専門	引領域 ①	身体障害領域の作業療法について,その目的と方法を理解できる			
27	専門]領域 ②	精神障害領域の作業療法について,その目的と方法を理解できる			
28	専門]領域 ③	発達障害領域の作業療法について,その目的と方法を理解できる			
29	専	門領域	老年期障害領域の作業療法について,その目的と方法を理解できる			
30		まとめ	作業療法の源流となる各種の理論	こついて,理解を	深める	
į	教科書	既存6	り教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない	
:	参考書		検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず, 予習復習を怠 らないこと	
Ⅰ 成績評価 Ⅰ		・30回の講義のいより総合的に判	中で数回小テストを行い,模擬試験 判定する	の結果も勘案した	たうえで,各々の成績の合算に	
	備考					

		選択	☑ 必修		☑ 講義	□ 演習 □	実習		
	科目名		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	作業療法学総論	I 佐	石田裕二 千葉馨 西村大地藤速太 石川竜乃介(実務経験		2	3	後期		
	授業概要	3年間の	集大成として学べるよう講義を	展開する					
	到達目標	・筋骨格	系の知識を日常生活の動作と終	吉び付け	、動作分析につ	いて理解できる。			
		l.	授業計	-画					
1	基礎・臨床医 臨床心理学		発達段階と発達課題について	て理解で	きる				
2	基礎・臨床医 臨床心理学	_	防衛機制,障害受容,記憶の	について	理解できる				
3	基礎・臨床医 臨床心理学	_	心理療法,各種検査について	て理解で	きる				
4	基礎・臨床医 リハビリテーシ		障害分類(ICF),ユニバー	-サルデ	 ザインについて理	 里解できる			
5	基礎・臨床医 公衆衛:		標準予防策,一時救命処置	標準予防策,一時救命処置などのリスク管理について理解できる					
6	基礎・臨床医 制度関		理学療法士および作業療法:	士法,介	護保険などの法	制・制度を理解で	できる		
7	基礎・臨床医学領域 病理学 ①		免疫,感染症について理解	免疫、感染症について理解できる					
8	基礎・臨床医 病理学		腫瘍、老化について理解できる						
9	基礎・臨床医 病理学	_	炎症,創傷治癒について理解	炎症、創傷治癒について理解できる					
10	基礎・臨床医 老年医:	- 3 ./. /	サルコペニア, フレイル, 月	サルコペニア,フレイル,廃用症候群について理解できる					
11	基礎・臨床医 病理学		内分泌器官の構造と機能,化	内分泌器官の構造と機能,代表的な疾患とその症状について理解できる					
12	基礎・臨床医 診断学	学領域 ①	脳の画像診断学について理解	解できる					
13	基礎・臨床医 診断学	E学領域 ②	胸部,腹部,四肢の画像診	断学につ	いて理解できる				
14	基礎・臨床医 診断学	学領域③	異常心電図の判読,心疾患の	 の診断に	ついて理解する				
15	基礎・臨床医 臨床薬理		様々な症状に適応する薬剤に	様々な症状に適応する薬剤について理解できる					
16	基礎・臨床医 生化学検		生化学的検査による正常基準と異常所見を惹起する疾患について理解できる						
17	基礎・臨床医 PE・P		フィジカルアセスメントに	関連する	各事項について	理解できる			

18		「門領域 「力学 ①	てこの原理,モーメントなどの運	[理, モーメントなどの運動力学について理解できる			
19	_	「門領域 「力学 ②	正常歩行の特徴および歩行周期と筋活動、歩行率について理解できる				
20		「門領域 「力学 ③	異常歩行の特徴およびその原因に	ついて理解できる	5		
21	_	「門領域 「力学 ④	姿勢,基本動作における運動学的	おける運動学的特徴について理解できる			
22		「門領域 療法学 ①	運動学習の理論と学習方法.患者教育について理解できる				
23		門領域療法学 ②	関節可動域訓練およびストレッチ	ングの理論と方法	について理解できる		
24	運動	「門領域 療法学 ③	筋力増強訓練の理論と方法につい	て理解できる			
25		「門領域 療法学 ④	運動における呼吸,循環,代謝などの生体反応について理解できる				
26		[門領域 療法学 ①	温熱療法の種類,適応と禁忌,実施方法について理解できる				
27		「門領域 療法学 ②	寒冷療法の種類,適応と禁忌,実施方法について理解できる				
28		「門領域 療法学 ③	超音波療法の種類,適応と禁忌,実施方法について理解できる				
29		「門領域 療法学 ④	電気刺激療法の種類,適応と禁忌	,実施方法につい	へて理解できる		
30		「門領域 療法学 ⑤	水治療法および牽引療法の適応と	禁忌,実施方法に -	こついて理解できる		
2	教科書	既存存	の教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない		
į	参考書		検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと		
成績評価		・30回の講義のより総合的に	中で数回小テストを行い,模擬試験の結果も勘案したうえで,各々の成績の合算に 判定する				
	備考						

		選択			☑ 講義	□演習□	実習	
	科目名		教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	作業療法学総論IV	,	石田裕二 千葉馨 西村大地		2	3	後期	
			速太 石川竜乃介(実務経験教	(員)		,	12773	
	授業概要	3年間の集	大成として学べるよう講義を原	展開する				
	到達目標	治療技術に	こ直接活かせるような基礎・臨	床医学	の知識,作業療	法専門分野の知識	战を再学習し,臨	
	23.2E	床能力を高	高め, その成果を国家試験対策 		させることがで	きる		
			授業計	画				
1	基礎・臨床医学 骨格系の構造と		骨の発生学,微細構造,形物	犬, 骨機	能,骨疾患につ	いて理解できる		
2	基礎・医学 骨格系の構造と		関節の形状とその動き,運動	动器疾患	について理解で	きる		
3	基礎・臨床医 筋の構造と機能		筋の種類,収縮のメカニズム	ı, エネ	ルギー代謝・筋	疾患などを理解で	ぎきる	
4	基礎・臨床医 筋の構造と機能		筋の支配神経,神経筋接合部	8の機能	, 関節運動と筋	収縮の関係などを	と理解できる	
5	基礎・臨床医 神経系		中枢神経の構造と機能,中枢神経障害による病態について理解できる					
6	基礎・臨床医 神経系	学領域 ②	末梢神経の構造と機能、末梢	肖神経障	害による病態に	ついて理解できる	3	
7	基礎・臨床医学領域 神経系 ③		脊髄疾患,脊髄損傷の病態,自律神経の構造と機能について理解できる					
8	基礎・臨床医 内臓系 ① 呼	学領域 吸循環器	呼吸器・循環器構造と機能. それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる					
9	基礎・医学 内臓系 ②	領域 消化器	消化器に分類される臓器の構	構造と機	能,代表的な疾	患について理解で	できる	
10	基礎医学領 内臓系 ③		腎臓・膀胱の構造と機能,代	代表的な	疾患とその症状	について理解でき	きる	
11	基礎・臨床医 内分泌を		内分泌器官の構造と機能,代	代表的な	疾患とその症状	について理解でき	きる	
12	基礎・臨床医 先天性疾		様々な遺伝病,周産期異常な	など,代	表的な先天性疾	患の症状について	て理解できる	
13	基礎・臨床医 精神医学	_	精神障害領域の疾患と治療に	こついて	理解できる			
14	基礎・臨床医 精神医学		てんかん,認知症について理	里解でき	る			
15	基礎・臨床医 小児科学領		発達障害も含め小児科領域の	の疾患に	ついて理解でき	3		
16	基礎・臨床医 臨床心理		防衛機制,心理療法,各種核	食査につ	いて理解できる			
17	基礎・臨床医 リハビリテーシ		障害分類(ICF),障害受容	·, ユニ/	バーサルデザイン	ンなどについて理	解できる	

18		臨床医学領域 度関連	理学療法士・作業療法士法,介護に	呆険などの法制・	制度を理解できる	
19		臨床医学領域 3.衆衛生	感染予防,医療制度など,臨床現場に即した知識を習得する			
20		臨床医学領域 f学 ①	脳の画像診断学について理解できる	3		
21	基礎・ 診断	臨床医学領域 f学 ②	胸部,腹部,四肢の画像診断学にで	ついて理解できる)	
22	基礎・ 診断	臨床医学領域 f学 ③	異常心電図の判読,心疾患の診断に	こついて理解する	,	
23		臨床医学領域 床薬理学	様々な症状に適応する薬剤についっ	て理解できる		
24		臨床医学領域 化学検査	生化学的検査による正常基準と異常	常所見を惹起する	疾患について理解できる	
25		臨床医学領域 PE・PA	フィジカルアセスメントに関連する各事項について理解できる			
26	専門	引領域 ①	身体障害領域の作業療法について,その目的と方法を理解できる			
27	専門]領域 ②	精神障害領域の作業療法について,その目的と方法を理解できる			
28	専門]領域 ③	発達障害領域の作業療法について,その目的と方法を理解できる			
29	専	門領域	老年期障害領域の作業療法について,その目的と方法を理解できる			
30		まとめ	作業療法の源流となる各種の理論	こついて,理解を	深める	
į	教科書	既存6	り教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない	
:	参考書		検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず, 予習復習を怠 らないこと	
Ⅰ 成績評価 Ⅰ		・30回の講義のいより総合的に判	中で数回小テストを行い,模擬試験 判定する	の結果も勘案した	たうえで,各々の成績の合算に	
	備考					

		□選	択 ☑ 必修	□ 講義	□ 演習 ☑	実習
	科目名	,	教員氏名	単位	配当年次	開講期
	臨床実習	i	石田裕二 千葉馨 西村大地 佐藤速太 石川竜乃介(実務経験教	. 1 1	1	後期
	拉茶和里	臨床	教育者のクリニカルクラークシッフ	の要領による指導に	より、病院・施設に	こおける 作
	授業概要	業療	法士の臨床活動を見学する			
	到達目標	実 ⁱ	習施設における職員の連携の様子を	見学し,また,実際	に患者や利用者と	関わる中で,
	判连日际	障:	害像や作業療法士の職務について理	解を深めることがで	きる	
			授業計	由		
1						
2						
3						
4		, ,	で行う臨床実習I(見学実習)を通 作業療法士の活動,他のリハビリラ	,		-
5	テーシ	ョン業務の	②全体像を理解する.また,臨床教育 ,大まかな障害像を把握できるよっ	育者の指導により,患		ŕ
6	本実習	では,それ	.ぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習	習後の評価を行う.		
7			i(8時間)により,どのような態度 者)との接し方,臨床教育者との:			
8			テーション部門の大まかな業務の流 前に学習し、自分で本実習の目標で			法士の具体的
9			i(8時間)では,臨床実習 で学び さきたかを確認する.	び得たことを発表し、	他の学生からの質	疑を通して
10						
11						
12						
13						
14						
15						
教科書 既存の教科書を適宜使用す		既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上グ 認定しない		
:	参考書	既存の教和	料書, ノート, ジャーナルなどの参 料を有効に利用すること	考資留意事項等	できるだけ欠席せ らないこと	ず,予習復習を怠
反	戈績評 価	臨床実習前	うの評価,臨床実習後の評価,実習詞	記録,課題等の成果物	勿などを総合的に判	断し評価する
	備考					

		□ 選	択 ☑ 必修		□ 講義	□ 演習	✓ 実習
	科目名	, ,	教員氏名	1	単位	配当年次	開講期
	臨床実習	2 II	石田裕二 千葉馨 西村大地 佐藤速太 石川竜乃介(実務経験教		1	2	前期
	授業概要	臨床	教育者のクリニカルクラークシップ	プの要領	頃による指導によ	り,訪問リハヒ	
	汉未 恢安	通所	リハビリテーションにおける作業療	寮法士 の	の臨床活動を見学	<u>-</u> する	
	到達目標	実	習施設における職員の連携の様子を	見学り	し,また,実際に	患者や利用者と	だ関わる中で,
	2122118	障	害像や作業療法士の職務について理	里解を決	深めることができ	る	
	T		授業計	画			
1							
2							
3							
4			う臨床実習Ⅱ(地域在宅見学実習) ・療法士の活動,他のリハビリテーシ		,		
5	ション業務	の全体像を	で理解する。また,臨床教育者の指導 影像を把握できるように学習する.			,	
6			臨床実習前の評価及び臨床実習後の	の評価	を行う.		
7	臨床実習前	で評価(8	・時間)により,どのような態度・ネ €し方,臨床教育者とのコミュニケ-	見点で	見学実習に臨めに		
8	ビリテーシ	ョン部門の) 大まかな業務の流れ(処方・評価 習の目標を立てることができるよ	・治療	など), 作業療法	去士の具体的な	業務,などを事前
9	- で学び得	たことを発	多表し,他の学生からの質疑を通して	て到達	目標を達成できた	たかを確認する.	
10	指定規則に		fリハビリテーション又は訪問リハ b	ビリテ	ーションに関する	る実習を1単位	(40時間)以上行
11	-						
12							
13							
	_						
14							
15							
	教科書		既存の教科書を適宜使用する		履修条件	全日程の1/5以」 認定しない	-欠席すると単位を
	参考書	既存の教	科書, ノート, ジャーナルなどの参 料を有効に利用すること	考資	留意事項等	できるだけ欠席 らないこと	せず,予習復習を怠
J5,	戈績評 価	臨床実習前	前の評価,臨床実習後の評価,実習	記録,	課題等の成果物権	などを総合的に	判断し評価する
備考							

		□選	択 🗹 必修		□ 講義	□ 演習 ☑	実習
	科目名	, -	教員氏名		単位	配当年次	開講期
	臨床実習	3	石田裕二 千葉馨 西村大地 佐藤速太 石川竜乃介(実務経験教		3	2	後期
	拉米加市	臨床	<u>-</u> 教育者のクリニカルクラークシップ	プの要領に	による指導によ	り、病院・施設に	こおける
	授業概要	作業	療法士の指導の下,見学・模倣の中	マを種様	検査法の実習を	行う	
	到達目標	病院	・施設における作業療法士の具体的	りな臨床シ	活動,特に様々	な障害に対応する	各種の検査法に
	判连日际	つい	て理解を深める				
			授業計画	曲			
1							
2							
3							
4	3単位(120)時間) で行	īう臨床実習Ⅲ(検査実習)を通し [~]	て,作業	療法士が対象者	省の検査をどのよ	うに実施してい
5			して理解を深める. 臨床指導者の指) にそれを正確な手技で実施できる		,	†応する適切な検査	査法を
6							
7	臨床実習前	の評価(24	床実習前の評価及び臨床実習後の記時間)により、どのような技能を	身に着け	て実習に臨めば		
8	査方法,そ	の検査結果)との接し方、疾患・障害を理解で が示す健常者との相違点など、作業				
9	臨床実習後	の評価(16	立てることができるようになる。 時間)では、本実習で学び得たこと	とを発表	もし,他の学生な	いらの質疑を通し	7
10	. 到選日標を	達放できた	かを確認する.				
11							
12							
13							
14							
15				<u>.</u>			
	教科書		既存の教科書を適宜使用する		履修条件	全日程の1/5以上欠 認定しない	?席すると単位を
	参考書	既存の教和	斗書, ノート, ジャーナルなどの参 料を有効に利用すること	考資	留意事項等	できるだけ欠席せ ^っ らないこと	ず,予習復習を怠
成績評価 臨床実習前の評価,臨床実習後の評価,実習記録,課題等の成果物などを総合的に判断し評価					断し評価する		
備考							

□ 選択 ☑ 必修 □ 講義 □ 演習 ☑ 実習						実習	
	科目名	7 	教員氏名		単位	配当年次	開講期
	臨床実習	₹IV	石田裕二 千葉馨 西村大地 佐藤速太 石川竜乃介(実務経験教		9	3	前期
	授業概要	臨床	教育者のクリニカルクラークシップ	プの要領	領による指導によ	り、病院・施設に	こおける
	1又未恢安	作業	療法士の指導の下,見学・模倣・実	実施の 7	プログラムの中で	治療学実習を行う	i
	到達目標		・施設における作業療法士の具体的	匀な一流	連の臨床活動(治	ì療的介入)を見覚	ዸ・模倣・実施を
		通じ	て体験し,理解することができる				
	1			画			
1							
2							
3							
4	るかを見学	・模倣を通	行う臨床実習Ⅳ(総合実習)を通し して理解を深める.臨床指導者の打	指導に	より,各障害に対	対応する適切な検査	査法を学びそれ
5	を正確な手る。	-技で実施で	きるようになる.この情報をもとり	に治療	計画を立てて治療	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	えることができ
6	+b22 - · ·	- 7 lo 701 mb	· c	=117 /=== -4-	4 - =		
7	臨床実習前	jの評価(24	床実習前の評価及び臨床実習後の 4時間)により、どのような技能を 2001年の特別である第2002年	身に着	けて実習に臨めり		
8	査方法,そ	の検査結果)との接し方、疾患・障害を理解 が示す健常者との相違点など、作				
9	臨床実習後	での評価(16	立てることができるようになる. 6時間)では、本実習で学び得たこ	とを発	き表し,他の学生7	からの質疑を通し [、]	7
10	. 到達日倧を	(達成できた	かを確認する.				
11							
12							
13							
14							
15							
		ı				Т	
	教科書		既存の教科書を適宜使用する		履修条件	全日程の1/5以上欠 認定しない	2席すると単位を
	参考書	既存の教和	料書, ノート, ジャーナルなどの参 料を有効に利用すること	考資	留意事項等	できるだけ欠席せ [*] らないこと	 ず,予習復習を怠
瓦	戈績評価	臨床実習前]の評価,臨床実習後の評価,実習	記録,	課題等の成果物を	などを総合的に判	 断し評価する
	備考						

□ 選択 ☑ 必修					□ 講義	□演習 ☑	」実習
	科目名	<u></u>	教員氏名		単位	配当年次	開講期
	臨床実習	₹ V	石田裕二 千葉馨 西村大地 佐藤速太 石川竜乃介(実務経験教		9	3	前期
	let vik log er	臨床	 教育者のクリニカルクラークシッフ	の要	<u> </u>	 :り, 病院・施設	 における
	授業概要	作業	療法士の指導の下,見学・模倣・実	産施の	プログラムの中で	治療学実習を行	ò
	7.1.+ D I#	病院	・施設における作業療法士の具体的	なー	 連の臨床活動(治	対療的介入)を見	 学・模倣・実施を
	到達目標	通じ	て体験し,理解することができる				
		<u> </u>		画			
1							
2	-						
3	-						
4	•		行う臨床実習V(総合実習)を通し iして理解を深める.臨床指導者の打				
5	を正確な手る。	技で実施で	きるようになる.この情報をもとり	こ治療	を計画を立てて治療 を立てて治療 を対する。	療プログラムを考	えることができ
6	-						
7	臨床実習前	jの評価(24	床実習前の評価及び臨床実習後の記 4時間)により,どのような技能を引	身に着	着けて実習に臨め り		
8	査方法,そ	の検査結果)との接し方,疾患・障害を理解 が示す健常者との相違点など,作詞				
9	臨床実習後	との評価(16	立てることができるようになる. 6時間)では、本実習で学び得たこ	とを発	Ě表し,他の学生 :	からの質疑を通し	.7
10	- 到達日標を	(達成できた	かを確認する.				
11	-						
12	-						
13	-						
14	-						
15	1						
	教科書		既存の教科書を適宜使用する		履修条件	全日程の1/5以上:認定しない	欠席すると単位を
参考書 既存の教科書,ノート,ジャーナルなどの参考資 留意事項等 できるだけ欠席せず, らないこと					ず,予習復習を怠		
<u></u>	 找績評価	臨床実習前	方の評価,臨床実習後の評価,実習	記録,	課題等の成果物	 などを総合的に判	断し評価する
備考							